

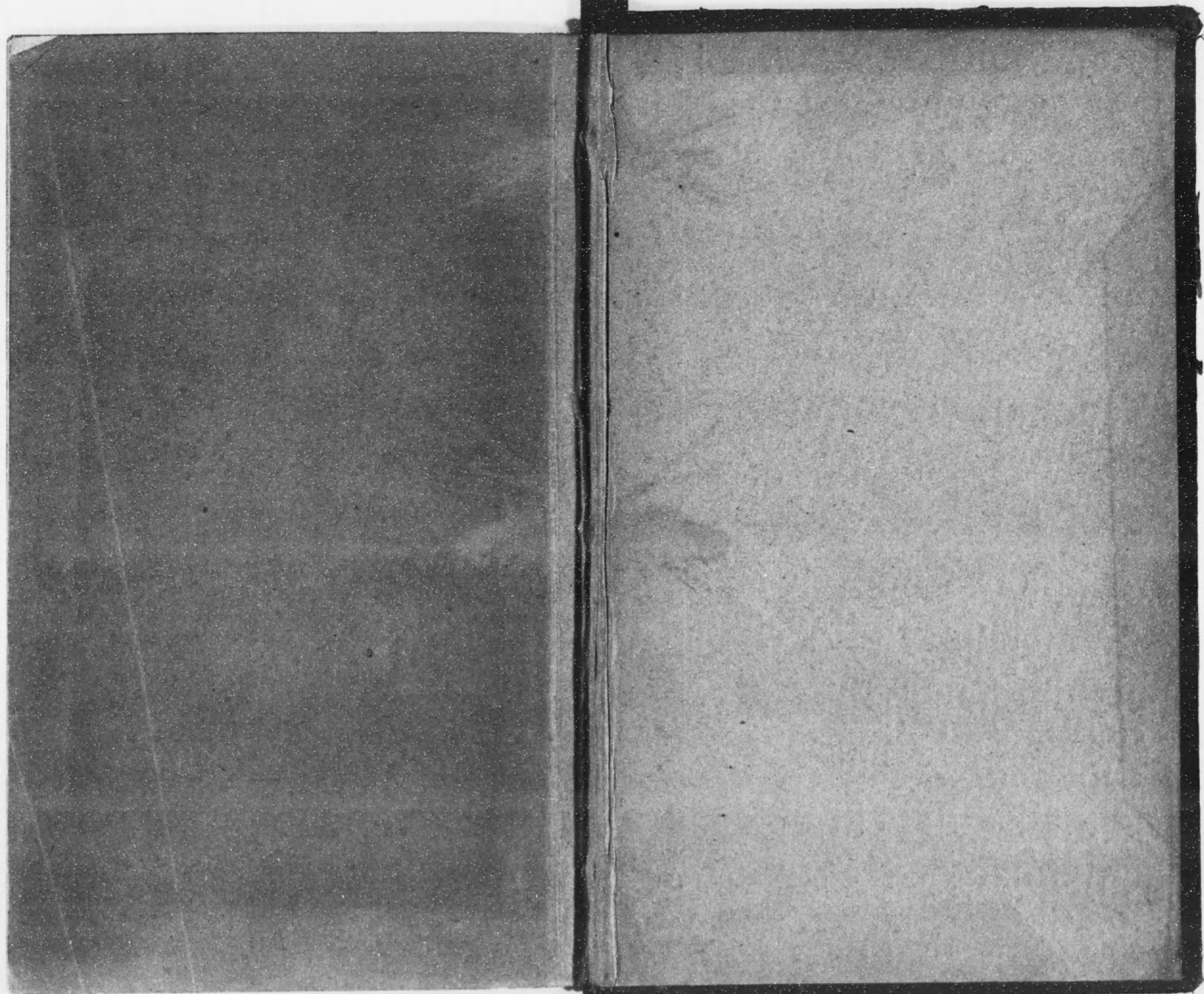
500

3



始





南洋研究叢書
第十篇

續南洋協會演講集



500-3



南洋協會編纂

續南洋協會讀本集

東京南洋協會發行

大正
12.4.12
内交

凡 例

一、本書は題名の示す如く、曩に上梓せる南洋協會講演集の續篇にして、正篇發行當時紙數の都合によりて採録し得ざりしもの並に、爾後の講演にかゝるもの、中より選抜收録せり。

一、正篇は主として、一般南洋に對する、統一的概念を讀者に與ふる目的を以て遺擇採録せるも、之に反して本篇は、専ら部分的南洋を紹介するの目的の下に編纂せり。

一、正篇を以て南洋研究の總論とすれば、本篇は正に其各論に當る。正續併せ讀みて初めて南洋の真相を明かにすべきも、各其一篇を讀むも亦南洋の事情を闡明するに足る。各篇收録する所の所論、各自獨立の一大論文を形成すれば也。

一、無慮一百回に亘る現代専門大家の講演、僅々二篇に收録する所を以て盡すもの

にあらす、他日期を見て選擇抽粹上梓すべし。

大正十二年三月三十一日

編者識

續南洋協會講演集目次

蘭領ボルネオの概念……………東洋殖産社 参事 安藤義喬…(一)

地位—地勢—地質及礦物—氣候—動植物—住民歴史—生産業

蘭領北ボルネオ事情…………… 故林謙吉郎…(三)

サンダカンとタワオ—有望なる農業—土地と労働者—氣候、風土、衛生

北ボルネオ會社に就て……………臺灣總督府 秘書官 鎌田正威…(五)

南洋の土木と水利—北ボルネオ會社と英國政府—北ボルネオ會社の行政組織—北ボルネオ會社の財政狀態—案外凌ぎ易き南洋の風土

セレベス島事情…………… 柱本瑞俊…(七五)

目次

セレベスの一般—氣候風土—人口と住民—物々交換—セレベスの四人種—土人と宗教—回教と基督教—教育制度—原始的農業—蜀玉黍と椰子—特有物産—林業と林産—有望なる鑛鑛—工業と金融—水産と商業—在留邦人は—永住權問題—蘭本國の方針—發展方法如何—凡ての點が有望—

ニューギニア事情……………南洋産業會社 取締役 日下部 半太郎…(二三)

廣義地勢—バプア種族—赤鬼と青鬼—凡てが食料—食人種族—蘭、獨、英—極樂島が中心—マヤブテン小峰—獨領と交通—原始的産業—往々々々南へ

蘭領東印度の農業……………農學博士 吉川 祐輝…(二四七)

甘蔗と甘蔗—地質と土壤—農業と農産—大農法と小農法—甘蔗糖と甜菜糖—スマトラ煙草—カツサバとタバコカ

蘭領東印度の石油事業……………日本石油會社 外事課長 松澤傳太郎…(二九二)

沿革—石油の産地及産額—油質—鑿井採油—製油及其製品—原油及製品の輸送—蘭領東印度の鑛業法規概況—重なる石油會社ジヤムビ石油に對する米蘭の紛争

南洋の蘭科植物に就て……………子爵相馬 孟胤…(二七)

蘭の原産地—蘭の種類蘭の分布—比律賓に入る—マノン山上の會長—バキオからモンタルナへ—ダバオの胡蝶蘭—ランゲン迄—野象を見る—ビルマの蘭—蘭は印度に少し—マイアンゾルフの二日—蘭米と蘭花—蘭の價格

續南洋協會講演集

蘭領ボルネオの概念

東洋拓植會社

安藤義喬

位置

ボルネオ島は北洋に於けるグリーンランドと、南洋に於けるニュー・ギニアと共に並び稱せらるゝ世界三大島の一にして、其第三位に位するものである。位置は亞細亞大陸の東南に當り、南支那海を隔て、西方馬來半島乃至スマトラ島に面し東方はセレベス海、及マカッサル海峡を隔て、セレベス島に、南方は爪哇海

を隔て、瓜哇島に隣り、東北方はスルー海を隔て、比律賓群島に對して居る。赤道は島の稍中央部を横斷して居つて、南北の延長北緯七度より南緯四度二十分に亘り、東西の延長は、東緯百八度五十三分より、百十九度二十二分に及び、東北より西南に向つて、八百三十哩の長さを持つて居る。面積は二十九萬三千四百九十六方哩にして、我日本全領土よりも稍大きく、我本州の三倍強である。かゝる大島であり、又交通機關も甚だ不備である所から、無智の土人は島といふ概念を持つて居ないのも無理ではない。

ボルネオ島は政治的に四つに別けることが出来る。即ち英領北ボルネオは其一で、島の最北端に位し、面積三萬一千〇六方哩、人口二十一萬、英領北ボルネオ會社の管轄を受けて居る。其二は英領北ボルネオの西南に接せるブルナイであつて、面積凡そ四千方哩、人口約三萬二千、英國の保護下に在る。其三はブルナイの西南に連るサラワクで、面積凡そ四萬二千方哩、人口約六十萬、亦英國の保

護領である。以上英國の配下に在る三國を除ける殘餘の部分は其四であつて、英領北ボルネオの南境サラワクの東境並に南境に接し、全島の約四分三を占めて居る所の極めて重要な部分である。即ち面積に於て實に二十一萬二千七百三十七方哩、我朝鮮と北海道とを併せて更に之を二倍したる面積に比敵する程の廣漠たる地域である。これが私の述べようとする蘭領ボルネオなのである。

地 勢

蘭領ボルネオは遠き以前は亞細亞大陸の一部であつたといふ事である。北境はカプアス山脈、イラン山脈に依て、英領に接して居り、此兩山脈の會合せる地方、即ち全島の中央部は、一帯の高地であつて、これから東方の海岸に二大山脈を派し、西南に向て一大山脈を出して居る。此等山脈の中に於て、最も高きは、國境に連亘せるものであつて、五、六千呎より一萬呎に及んで居る。中部高原の海拔は四千七百呎、此處は四季温暖であつて、熱帶の氣分は見られぬ。以上述べたる

山脈に依つて、蘭領ボルネオを大體四大地方に分くること出来る。其一は西方に向て河水を流下する地方、其二是南方に向て河水を放流する地方、其三及四は東方に河水を排出する地方である。西方に向て河水を流下する地方にカブアス河がある。此河は中部の高原に其源を發し、長蛇の如く平地を流れ、四、五呎の吃水を有する小蒸汽船は、河口より三四百哩を溯上すると云はれて居る。和蘭政府は此地方を一行政區劃として西部州と稱し理事官が之を治めて居る。此部分は面積に於て蘭領ボルネオの四分一強に過ぎないが、他の地方よりも早く開けて、人口も最も多い。他の三方は之を合して一行政區劃とし東南部州と稱しこれ亦理事官を置いて居る。東南部州中最南の部分が最も多く河川に富んで居て、従て平地も亦多い。諸大川の中にて最も重要なものは、マリト河である。此河は中部のクテ・ラマ湖を源として南下し、上流は瀑布急流等に妨げらるゝも、下流は肥沃沖積の地方を通じ、支流に依りて、西方に位せるカブアス、マラン河及びカハヤン河

に連つて居て、此等の河系は一大平野を占めて居るのである。即ちカハヤン河の流域は、一萬六千方哩、マリト河の流域は、三萬八千方哩に擴がつて居る。此等の流域の大部分は平地であるが、濕地の多いのは、開拓上の障害である。而して又河口より全延長の三分二迄は、何れも航運に便であるが、河口は概ね淺い方で、吃水八、九呎の汽船は、往々にして航行困難を感ずる事がある。マリト河の東は、漸次高くなつて南北に起る分水嶺に達し、それから東はマカツサー海峡に至る間、幅の狭い地域を有して居る。東南部州の最北に位する地域は、河流凡て東方スル一海に注いで居つて、カヤン河が一等大きい。其南に位する地域は、クテイ河の流域が其の大部分を占めて居る。クテイ河は、中部に其源を發し、河口に當て、多數の三角洲を作り、マカツサー海峡に注ぐ。此河は中流に至る迄、十八呎内外の深さを保つて、カブアス河並にマリト河と共に並び稱せらるゝ蘭領ボルネオ三大河の一である。

地質及礦物

全島の脊柱とも稱すべき、蘭領ボルネオ北境の山脈は、主に結晶片岩から出来て居て、板岩、砂岩、石灰岩等を交へ其間に屢々焼出岩例へば花崗岩、閃綠岩等が在る。水成層は先に古生層なりと信せられたるが、侏羅紀の化石を其間に發見せられたのを看れば、時代を異にせる、種々の地層を有するものと思はれる。東南部州の山脈も亦た同様である。乍併中部の高原及び、西部州と東南部州を境せる山脈は、第三紀に屬する水成火成兩岩から成つて居る。低地に下るときは、殆んど第三紀、及第四紀の沖積層であつて、處々に石灰床を見ることが出来る。礦産物としては金剛石、金、白金、鐵、水銀、朱砂、銅、錫、安質母尼、石油、硫黃、岩鹽、大理石及石炭等を産し、此中主なるものは金剛石、金、石油及石炭である。南洋中金剛石の産地は此ボルネオばかりであつて、西部州のカプアス河地方、東南部州のペリトー河地方等の沖積層から發見せられるのである。西部州

のポンテアナ港、東南部州のパンジャルマシン港は金剛石の集散地として聞へて居る。金は同じ層に砂金として現はる、外、高山地帯にも其の鑛脈がある。金剛石と金とは未だ在來の原始的方法に依て、土人の採取するに任せて居る次第であるが、それだけ改良の餘地は充分ある譯である。石油は東南部州の東方ベリック・ババン港を集散地として、其奥地より産出する。上層は地下六、七百呎、次層は地下千二百呎程度の所に在て、品質は次層の方優等である。蘭英合辦の大會社に依て盛に經營せられ、同島に於ける堂々たる一大産業である。石炭はパンジャルマシン地方及び、ペリトー河上流地方ラウト島等に産し、パンジャルマシン地方のは、稍々良質であるが、他は品質に於て劣等である。此等は皆船運に依てペリトー河を下し、パンジャルマシン港から輸出せられる。ラウト島は、ボルネオ島の東南に在る小さい島であつて、全島の炭鑛は官業に委ねられて居る。

氣候

ボルネオは島であり、又赤道が其の中央を貫通して居るから、氣候酷暑にして、濕潤であらうとは、誰しも想像する所であるが、其實々際は堪えられぬ程の暑さではなく、私が嘗て乾燥期にパンジャルマシン地方を訪ねた頃は、非常に涼しく、爪哇のバタビヤ、スラバヤ等に比し、大に凌ぎよいと思つた。一年を通して平均温度華氏の七十八度乃至八十度であつて、山嶽地方の外は、七十度以下に降る事が稀である。暑い時は九十六度位に上ることもある。中部に進むに随ひ、土地は漸次高燥となるから、温度も次第に下降する。百米突を上る毎に、一度宛下る割合であるから、千米突の高地は十度低くなる譯である。

元來赤道直下といふものは、大體に於て無風帯であるから、支那海、太平洋等に見る如き、甚しき大風に遭ふことは無い。併しボルネオ島は、亞細亞大陸と濠洲大陸との中間に在つて、夏冬其影響を受けて居る。即ち亞細亞大陸が夏である時には、濠洲大陸は冬であるから、北方の低氣壓を充たさんが爲め、南方の高氣

壓が北進して、ボルネオ島を通過する東南風を起し、濠洲大陸が夏である時は、之と反對に亞細亞大陸は冬であるから、南方の低氣壓に向つて西北風がボルネオ島を貫くのである。前者は蘭領東印度に於て、東方季節風と稱へ、毎年五月より八月迄連續する。此期間は降雨少く。所謂乾燥期である。又後者は西方季節風と稱し、支那海及印度洋から蒸發せる、多量の水分を含んで居るから、此風の吹く間は、雨が多いのである。従て之を雨期と稱し、毎年十一月から一月一抔が此期間である。乾燥期が雨期に轉じ、又雨期が乾燥期に轉ずる中間の季節は、所謂轉換期であつて、風位定まらず、乾濕不整である。以上の如くボルネオ島に於ては主に季節風を感じるが故に、貿易風の影響が尠いと云つて宜しい。ボルネオの乾燥期は、絶対に雨を見ずといふ様のことではなく、毎月雨はあるが、唯其量が尠い丈である。パンジャルマシンに於ける觀測に依れば、雨季六十吋、乾期三十三吋位の割合である。

動物植物

亞細亞大陸と、濠洲大陸の中間に位する、蘭領東印度諸島の動物は自然右兩大陸に産する動物の型の何れかである。即ちスマトラ、ボルネオ、及び爪哇の三島に於ては東南亞細亞の動物に類し、セレベス、モルツカス及びチモール群島は、これより濠洲に過渡する地方であつて、動物は濠洲の型に近いのである。ボルネオ島は前既に述べた通り、嘗て亞細亞大陸の一部であつたから、大陸に産する動物を有して居ることは當然ではあるが、東南亞細亞、殊にボルネオに近き馬來半島に産する動物を、悉く有して居るかと言へば、必ずしもさうでない。中にはボルネオは特殊の物もある。先づ主なる獸類を擧げて見るならば、猿類は其種類極めて多い。土語にてオラン・ウータン（山人と譯す）と云ふ大猿は、大さ人體程あるが性質温和であつて、人に馴れ易い。これは馬來半島には居ない。又鼻の長い猿があるが、これはボルネオの特産である。パンジャルマシン附近、パリトー河

の或る小島の中に、猿島といふのがある。この島は古來猿類に依て占有せられ、土人は彼等に對し、一種の迷信を持って居て、食物を與へて、捕ることを許さない。だから人に馴れて、見物人を恐れないから。旅行者は珍らしがつて見物に行くのである。蘭領ボルネオには猛獸といふものは殆んど居ないと云つて宜しい。これは寧ろ不思議な位で、彼地へ往つて仕事をする者の都合のよい處である。馬來半島に見る如き、象とか犀とか虎とかいふものは殆んど居ない。尤も英領ブルネイ方面には若干の象や犀が居るといふ話であるが、其中象は天産物ではなくて、人が大陸から移したものが、山に入つて野生となつたものらしい。豹は小豹のボルネオのみの特産の物が居るばかりである。野牛は甚だ稀であるが、野猪は非常に多い。又其一種にて、角の様な牙を持って居る。土語パピルサと云ふものも少くない。野猪の農業に對する害は、非常なものであるから、農業を營む者は之を防禦し、驅除することに努力せねばならない。鹿類も亦農作物に害を爲すのである。栗鼠、

鼯鼠、豪猪、靈猫、鼠類、蝙蝠等隨處に見らるゝ。爬虫類中鱉は、河中は棲み往
往にして人畜を害することがある。蛇類は種類多く大蛇も居るが滅多に出會ふも
のではない。唯大蜥蜴は、至る所に居る。これは鶏を捕る程度であつて、人には
無害である。又やもりの類も多いが、これは害がないばかりでなく小蟲を捕つて
呉れるから、却て都合がよい。鳥類では鷺、鷹、兀鷹、鷹、梟、鶴、雉、大角鳥、
鷓鴣、鴉、鸚鵡、鳩、啄木鳥、鶉、鶉、燕、雀等が普通である。就中雀は開墾地
へ群來して、穀類に害を爲すから、随分厄介である。燕の一種にして岩窟に燕巢
を營むものがあるが、その巢は食用に供することが出来て、支那人の珍重する所
である。昆蟲類中蚊の多いのは特色であるが、これは開拓事業の進むに随つて漸
次減少するであらう。蜂類亦尠からず、蜜蜂も澤山である。蛾蝶類は其種類多く
形も大きく、又頗る美麗である。河川、沼澤には魚類も多い。

以上は野生動物であるが、人の飼養する動物には、第一に農家に無くてならぬ水

牛がある。これは馬來人は食用にも供する。犬、猫、豚、雞等は普通である。馬
は甚だ小いが英領へ行くとボルネオ小馬と云つて、以前より飼養されて居る種類
がある。

蘭領ボルネオの植物は、熱帯のことゝて、喬木は亭々として百五六十尺に達し、
蔓類之に攀ちて繁茂し、下生も密生せるを以て、白晝なほ陰鬱であつて原生林で
は日光を見ることが出来ない。そして蘭領ボルネオは開けて居る所が比較的尠い
から、大部分が原生林であるといつてよい。海岸の低湿地及海潮を感ずる河岸の
低湿地は多くはマングローヴと稱する丈高からぬ樹木を以て蔽はれて居る。此樹
は幹根錯綜して居つて人の上陸を妨ぐることに非常であるから、其邊へ船を付ける
ことが出来ない。隨て此樹の生へて居る地方は開拓が後れる譯である。蘭領ボル
ネオの開拓の進まなかつた理由の一はこれである。湿地にはニツパ椰子、セーゴ
椰子等が繁茂して居る。又海岸から遠からざる所にボルネオ・ガラムといふ樹の

生へて居る地方がある。それから内へ入ると乾燥地は常緑闊葉樹を主林木とし龍腦香料、荳科、樟科等に屬する林木等經濟的價値を有する針葉樹もないではないが全般に亘つて居ない。喬木中利用し得べき材種は九一種もあらうけれども、通常多く用ゐらるゝものは硬木種に於て二十六種、軟木種に於て十四種程ある。即ち硬木にはエーリン、スランガンバツ、メルバン、ラサツク、クランジ、カムニング、ジャムブ、ヘレバン、ニリ等の如き、軟木にはカポール、メランチ、タムペド、パンキレイ、カラボク、メランチ、メダン等の如き是れである。竹類は隨所に多く、又籐蔓も林中に多い。

耕作され居る植物を擧ぐれば、古々椰子、檳榔樹、珈琲、護謨、ガムビール、胡椒、カボツク、カカオ、蜜柑、タビヲカ、煙草、甘蔗、稻、玉蜀黍、芭蕉、瓜類、甘藷等其他枚擧すればまだ幾らもあらう。

住 民

一九一七年末の統計に依れば蘭領ボルネオの人口は西部州五十七萬三千六百三十七人、東南部州九十四萬八千六百六十六人合計百五十一萬四千五百〇三人である。此内歐羅巴人は僅に二千に足らず。亞刺比亞人四千人、支那人五萬人、日本人は未だ數ふるに足らないのである。正確な統計を持って居ないが、大抵三百人から三百五十人の間にあらうと思ふ。一番多いのがボンテアナで百名許、次はバリツクババンで六十名、次はマサリンダの五十名、其他はパンジェルマシ、ダナウサラク、サンガサンガ、コタバル等には邦人を見ることが出来る。職業は雜貨屋、寫眞屋、洗濯屋、船大工、漁夫等、又は農場に勤務する者を主とし、中には醜業を營む者もある。

ボルネオには嘗てネグリティ人種が住したのであらうとは、今尙ほ其遺蹟に依て想像せらるゝと云ふが、現在に於ては最早此人種を見ることは出来ない。土人としては回々教信者と未開人(通稱マイヤ族)とに二大別することが出来る。併し回々

教信者は實は土人では無いので、皆嘗て隣島から移住した馬來人の後裔である。西部州へは馬來半島方面から渡り來り、東南部州へは爪哇、セレベス方面から渡つて土人とも雜婚し、また印度人、亞刺比亞人、支那人等の血液をも受けて居るから、一口に馬來人と云つても、種族は色々雜つて居るのである。此等の祖先は嘗初は印度人の文化を受けて佛教を信じて居つたが、後に亞刺比亞人から回々教を傳へられて、悉皆其教化を受け、今は皆な熱心なる回々教徒である。隨て若干の貯が出来れば、之を持って遙に亞刺比亞のメツカに順禮することが習慣となつて居る。又彼等は多くは海岸に近い交通の便利なる處に住んで居て概して舟を操ることが巧である。内陸へ入つて行くと比較的他種族の影響を受けて居ない所の未開人が居る。これは實際に於て此島の主人公とも稱すべき者であつて、主に土人と稱すべき者はこれである。其未開人も之を大別すれば、プロトマレイ種及インドネシヤン種の二つとなり、更にプロトマレイ種をイバン族(一名海ダイヤク族)、

カーヤン族の二に分け、インドネシヤン種をケンヤア族、クレマンタン族、ブナ族の三に分けることが出来る。これ等を細別する時は更に多い數になるが、此處には概念を得ればそれで善いから、右の六支族に就て大體を述べる丈に止めて置かう。

イバン族は西部州カプアン河地方からサラワクの國境に近い沿海地方に住んで居て體格は整ひ、皮膚の色は他種族より黒く、毛髪は多く且つ長い。他種族で出來ぬ力業でも好んで之を仕遂げる程勤勉であるから、之を適當に遇するに於ては、使用して役に立つのである。開墾事業に於ける測量人夫、伐木人夫等には屈強である。快活でよく笑つて冗談などを云ふ。併し缺點とする所は、教養足らず、組織的能力を缺き、首長に對して敬意を拂はず、争鬭を好み屢々共同的生活の秩序を破壊することがある。のみならず、最も怖るべきは首狩習慣であつて、他の種族は優等人種の感化を受けて今日此惡習慣を止めてしまつたが、獨りイバン族の

みは悍猛に此習慣が浸潤して居る。次のカーヤン族はブルカン河コテイ河パリトウ河の中流以上の地即ち中部ボルネオに住んで居る。戦争を好むことはイバン族と同じであるが、イバン族程恐ろしくなく一層沈着で、保守的で、宗教心があつて、手工に巧みで、むやみに争をすることはなく、よく首長を尊敬し、服従する。イバン族のやうによく働くけれども、身心の働きは少しく遅緩で且つ重くるしい。毛髪黒く真直であつて、皮膚の色はイバン族に比し淡く、肉桂色を呈して居る。彼等は農業時代に入つた種族であつて、陸稻の耕作に堪能であるのみならず、山間に階段を作つて水田を拓て居る。又錬金術を習得し、刀劍及槍の製作は殊に著名である。又家屋の構造設計等は他種族よりも精巧である。

第三のケンヤ族は中部以北の高山地方に擴がつて居るが前記カーヤン族の住んで居る地方にも交つて居る。而してイバン族よりはカーヤン族に近い。毛髪黒く真直に、皮膚は前記二族よりも淡く一般に肉桂色を爲し、容貌の美なることは

本島土人中の最上とされて居る。此族は土人中最も勇敢にして伶俐である。争闘を好むことは同じであるがイバン族ほど激しくなく、又カーヤン族に比すれば一層勢があり又興奮し易い。首長に對して甚だ忠義であり又従順である。稻の耕作法、家屋の建築法等はカーヤン人より學んで居る。

第四のクレマンタン族は特に地域を限らず、何れの地にも見ることが出来る。相貌等は前記ケンヤ族に類似して居る。併し前記諸種族の如く殺伐ならず、又喧嘩好にはあらずして、屢々他の種族の迫害を受け、部落より部落に轉々することがある。性質注意深く、伶俐で、社交的で、手工に巧であるが、少しく臆病である。彼の吹矢は固有の武器であつて、後記のブナン族を除けば最も狩獵に従事する土人である。米作の法を知つて居るが、又セーゴ椰子から澱粉を採て之を常食とする。従順であつて首長の下に平和の活を營んで居る。

第五のブナン族は最も野蠻の種族であつて、深山に住んで居るから、滅多に見

ることが出来ない。他の土人ならば平地とか河岸とかに住居を構ふことが普通であるけれども此族は左様でない。部落としては二、三十人程度のもので、これに永住するのではなく、放浪的生活を営んで居る。耕作の法を識らず、天然物に依て生活し、交通に河川の利用を爲さず、舟を造ることを知らない。家屋としては簡單なるもので木枝と木葉の小舎に過ぎない。甚だ臆病で、他種族の如く殺伐ならず、平和を好めども、他の迫害を受くる時は執拗であつて報復を期し吹矢又は毒刀を以て敵を暗殺するのである。體格はケンヤー族に似て丈夫で、皮膚は淡黄色である。死者を葬るに墓を設けず、死んだ小舎に置ざりにするのが此族の特長である。

歴 史

土人は記録を有せず。口碑とても數代以前に遡らず。従て其の歴史を知ることが出来ないが、最も先に各地より馬來人が入込んで来て海岸又は河川の沿岸に住んだ者が、後から入り込んで來た他の種族の爲めに追はれて、漸次奥地に入り、

中央の高山地方に迄も移住して、全島各地に部落を見る様になつたものと思はれる。そして西部州のボンテアナ、東部州のベンジャルマシン、バシール、コテイ、バルンガン等には、豪族が住んで後に土王と爲つて夫々地方の主權を握つて居たのである。印度人は紀元第一世紀より第五世紀迄の間に東南部に移つて、其處に定住したであらうと云ふことで、今日其遺蹟が見られる。印度人に次で這入つて來た外國人は支那人であつて、第六世紀頃からの記録がある。勿論それ以前からも交通があつたものであらう。支那人の初めて入込んだ地方は西部州のボンテアナ地方であつて、彼等の目的は樟腦、燕巢、香料並に砂金を獲んが爲めである。十五世紀以降其の移住は段々多くなつて來た。かくして土人と雜婚し、其子孫は今日支那人として殘る者もあれば、又全然土化してしまつた者もある。支那人は獨り砂金を獲るを以て満足せずして、農業をも營んだ。胡椒、ガムピール等は彼等の好んで耕作し、其産品を輸出する所であつた。商業は彼等の最も長ずる所で

あつて、本國との貿易は次第に起つた。彼等の故郷は主に廣東、廣西地方であつて、北地方より來た者は多くは勞働者であるが、店舗を持って商業を營む者は福建地方の者が多い。

歐洲人が初めてボルネオを訪れたのは、十五世紀に於て、彼の有名なる西班牙提督マゼランの揮下の艦長が北部のブルナイ王國を見舞つた時である。其後葡萄牙人が來て今の蘭領まで手を出した。それは西部州のサムバスであつて、彼等は此港に商館を建て、貿易に従事したが、十七世紀に至り和蘭人の爲めに驅逐されてしまつた。和蘭人は斯く葡萄牙人を驅逐して一旦其處を引揚げたが、十八世紀に至り再び同處へ遣つて來てポンテアナ方面に於て貿易に従事したけれども、收支償はなかつたから再び此地を放棄した。其後十九世紀に至り和蘭人は爪哇より軍隊を送つて、西部一帯の地方を略し、植民地とした。

和蘭人が東南部州に入込んだのは十七世紀の事であつて、後十八世紀の初に至

り和蘭印度會社組織せられ、爪哇に確固たる地盤を造るに及んでパンジャルマシンの貿易を獨占し、工場を建設した。十九世紀に及んで土王はセレベス人の爲にめ攻められた時、和蘭人は之を追拂ひ、土王を退けて、其の弟を立てた。そして新王は和蘭人の扶けを謝する爲め領土の主權を讓渡し、和蘭の植民地は斯くして設けられたのであつた。和蘭人がボルネオの一部に主權を確立した後、英國人はポンテアナを襲ひ、またパンジャルマシンにも手を出した。併し一八一六年英國と蘭國との間に條約が結ばれて、爪哇全島の主權が和蘭に歸するに及んで、蘭領ボルネオに於ける和蘭人の勢力は回復せられ、又從前に屈從しなかつた土王も漸次和蘭の配下に屬するに至つた。而して其全部が蘭領となつたのは比較的輓近の事である。

生産業

蘭領ボルネオに於ける生産業としては、農業、鑛業、林業の外特に記すべきもの

借主なる産物はコブラ、コーバル、ダマール、ガムビール、セーゴ、籐、野生護謨、檳榔實、胡椒、木材、石炭、石油、金剛石、金、銅、鐵であるが、輸出品としては東南部では金剛石、護謨、石炭、木材、石油等、又西部では護謨、金剛石、金等が主である。其内主なる輸出品は石油、石炭、護謨、コブラ、金剛石、砂金である。輸出総額は一九一六年の統計に依れば、西部州一千二百六十九萬四千百十四盾、東南部州八千百萬八千三百十六盾合計九千三百七十萬二千四百三十盾で、輸入総額は西部州七百十二萬七千九十六盾、東南部州九百七十萬九千五百二十五盾、合計一千六百八十三萬六千六百二十一盾である。

開拓の後れたる蘭領ボルネオのことであるから、大資本を投入せるエステートは甚だ少いのである。獨逸人及佛蘭西人は東南部州パンジャルマシン方面に若干投資して居たが、獨逸人の分は我大阪の野村徳七氏買受け、佛蘭西人の分は東洋拓殖會社で買受けた。野村氏の買受けたる農場は二つを合せて凡そ六千二百十四

町歩あつて、主に護謨を栽培して居る。既成部分の外に未開地もあるから、今盛に開墾中である。土地は所有權を獲ることは出來ず、單に租借權を得るのみである。これは此農場ばかりでなく、蘭領東印度に於て外國人が新に土地を獲る方法は、租借の方法あるのみである。尤も爪哇に行くと所有權を得らるゝ領地もあるが、これは前代の遺物であつて、例外と云つても良からうし、かゝる物は追々に政府に買上げられて終ふものと思ふ。租借地の賃借料は、一パウ(凡我七反歩)に付五十仙のもあれば一盾、三盾のものもある。野村氏の租借地は五十仙とのことである。野村氏の農園はダナウ、サクラといふ處に在る。パンジャルマシンから自動車で二三時間で行かるゝ。次に佛人から東拓の買受けたる農場はマルカと云つて海岸に沿ふ所に約一萬二千町歩の面積を有つて居る。これは一部分に護謨が栽培されて居るが、大體未開地といつてよい。今尙ほ實地測量中であつて、且つ調査し、且つ開墾しつゝある。東海岸コタバル港附近に東印度起業會社の農場がある。

以上列べた所丈では、未だ充分に蘭領ボルネオの概念を得るものとは思はぬけれども、餘り長くなるからこの位で一先終を告げ様と思ふ。

英領北ボルネオ事情

故林 謙吉郎

サンダカンとタワオ

唯今井上さんから御紹介下さつた林と申す者で、私は近日歸りましたのでありますけれども一向見聞も乏しうございます。又御参考に供しますやうな材料はございませんけれども、強つて井上さんから御勧めでございますから、知つて居りますことだけ一應申し上げます。尙ほ御研究の材料もございましたら充分御質問下さいまして、私から御答しつゝ御話する方が便利だらうと思ひますから、其邊をも御承知を願ひます。

私の参りましたのは一昨年でございますして、同郷の舊い友人の井上君が暫く南

洋に居られて、是非一度往つて見たら宜からうと云ふ御勧めがありました。私も今後の日本の殖産興業の原料地でありますし、亦貿易地として、どうしても南洋を研究しなければならぬといふ考を持ちまして、遂に一昨年(一九〇四年)の二月に至りまして新嘉坡に着いたのであります。井上君の御案内で段々馬來半島の主に農業を視察しました。所が最初往きます目的は、南洋に於て吾々が根據を据えてやる事業は何處が一番宜からうか、又豫て井上君や吾々の理想と致して居ります日本の家族的の植民をするには何處が一番適當であるか、それらの比較研究の爲に行きましたのであります。井上君の意見を聽き、其土地の事情を聽いたりして、先づ諸方を見るよりは差當つて英領の北ボルネオを一遍研究したら宜からう。それに就いては幸に堺利喜太といふ農學者があります。序ながら此人の經歷をちよつと申上げて置きます。元は農科大學の助手をして居りまして、十二三年前に新嘉坡に参りまして、新嘉坡の植物園長のリットルといふ有名な農學者であります。其

人に就きまして熱帯地の植物を研究しました。それからジョホール王の植物園に於て栽培に關する實際の經驗を得ましてから、井上君の紹介で日本人の護謨栽培協會の顧問をして居りました。至つて品性の立派な學者でありまして、殆ど日本人として熱帯地の植物を研究したのは此人が一番だらうと申して居ります。其人が段々熱帯地を巡回して、結局英領北ボルネオが餘程面白いといふ報告を出しました。餘程面白さうでありますから、先づ蘭領其他を視察することに中止しまして、直に英領北ボルネオに参りました。所が新嘉坡から往きまして一番近い所のゼツセルトンといふ所へ着きました。其所は總督府のある所で御座います。それから段々北に往きまして、遂に東南の端のタワオといふ所に参りました。是は各地を調べつゝタワオといふ港を調べまして、各港を比較せしにゼツセルトンも餘り良い港ではございませぬ。それからクダといふ所があります。是も大船を着ける譯に行きませぬ。現今一番繁華になつて居りますサンダカンと云ふ所がありますが、

是も港内に暗礁がありましたして良港といふことはむづかしいのであります。素人が見ましてもタワンといふ港が唯一の港でございますして、殆ど理想的に出来て居る港ださうであります。私は素人でございますが、海軍の方などに聞きましたり、又船長諸氏の話聞きましても實に理想的の港に出来て居るといふ話でありまして、かつ日本から直行して参りますといふと一番便利でありますけれども、歐羅巴人が馬來半島を経由して此所に往きますのには一番不便な所であります。それで從來東海岸といふものは殆ど無人境でありまして、少しも開けて居ない。丁度私が往きました時に日本人は無論一人も居りませず、唯だ僅に五百英反ばかりを政府が護謨を試作しまして、是から開墾をしやうといふ所で戦争が始まりました。所が此五百英反の護謨畑も拂下げを受ける人がないといふ時に私が行きました。幸に日本政府の紹介で向ふの政府の雇入れになつて居りました林學士の後藤房次郎氏が駐在して居られました。といふのは此附近は非常に土地が肥えて居りまし

て、従つて樹木の成育が非常に宜しい。ボルネオは木材の産地としてタワオを一番としてある所であります。此林相の調査に殆ど二年間掛つて、私が往きました時に二年間此邊を調べたといふことであります。それで大いに便利を得まして、其護謨の模様などを見ました時に、如何にも馬來半島の比でないといふことを確め得ました。それから尙ほもう少し研究しやうと思ひました所が、此附近を開墾しますのに此所は港口でありますから丁度船が着きます。棧橋から少し往きますと直ぐに畑であります。前後左右に擴張致しますのに其畑がなければ擴張が出来ない。然るに私が往きます一箇月前に某米國人が見に往きまして、本店に照會して買ふと云ふ相談が纏つて居りましたから日本人の爲に是非取つて置いて貰ひたいといふことを後藤房次氏が熱心に主張しまして、私も日本人として此所を開墾しなければならぬ。殊に港も良から是非取りたいといふので、さう深く調べもしませぬで歸りました。其歸り掛けに英國の役人に、もう契約が出来て居るかと思

ましたら、契約はしてない、一定の値段を示してあるが、早く御相談下さる人に賣るのであるから、貴方が早く御買入れになれば貴方に差上げて宜しいといふことであるから、新嘉坡に歸りまして外の調べも中止しまして是非買収しやうと考へましたが、何分斯ういふ未開の土地であるから、絶對の不便の所でありますから、之を開發するには相當の資本を入れなければ開發は出來ない。誰か資本主に相談するか、或は資本を寄せるかするより仕方がない。一方に買手があるのであるから、早く買ふより仕方がないといふので、神戸へ上陸しまして、東京に歸りませぬ前に大阪の久原氏に實況を述べて、國家の爲に取つて置いて貰ひたいと話しました所が、久原氏が直ぐに大阪から電報を領事に打ちまして買受けを頼みましたのが此タワオで産業をしました極く發端になつて居ります。

有望なる農産

そこで昨年は兎も角タワオといふものが果してどの位良いのであるか、又久原

鑛業會社として仕事をするのにはどうしてもタワオの農業だけに止まらずして廣く仕事をする希望がございましたので、昨年又参りましたので兎に角一方ではタワオの農事の仕事を進行することにしまして、前申しました堺といふ人を雇入れまして昨年の二月かに是に掛りまして、各種の研究、又護謨の成育の状態、又椰子の生育の状態等を比較試験することに専門に掛からせました。私は馬來半島から蘭領、即ち爪哇、スマトラなどの視察を致しまして、さうして昨年の十一月に歸りました。其結果はどうであるかと言ひますと、先づ南洋に於ける事業といふものは着手前に充分なる調査をしなければならぬ。故に馬來半島、其他の調査は今少し歳月を藉して貰つて、各種の専門の技師を入れて尙ほ一段の調査をするといふ方針を取りまして、現に今調査中でありまして、外の産業のことに就いて正確なる御話をする知識はございませぬが、獨りタワオの農業だけは稍々成績を認めることが出來ますから、今年から實行期に這入る積りで當年の五月に向ふに参りました。

て、昨年から既に實施する積りで居りました椰子、護謨の成育の模様を實際に調査致しましたが、護謨と椰子に就ては實驗談を御話することが出来ると思ひます。今夕はタワオの主にも農業のことに就いて御参考に供せらるゝだけの事を申し上げます。今夕はタワオの主にも農業のことに就いて御参考に供せらるゝだけの事を申し上げます。たいと思ひますが、今申上げた通り、もう少し調査材料を持つて懸る積りで居りました所が、本日旅行先より歸つたばかりで、材料が甚だ乏しいと思ひますが、併し解りませぬ所がありましたら御質問下さいますれば、知つて居るだけのことは申し上げます。

大體護謨に就いて申し上げますといふと、比較するものは主にも馬來半島でございます。馬來半島とどれ位の違ひになつて居りますかといふと、先づ年間に致しまして一年、即ち馬來半島の護謨は井上君が先輩でございますから、私が申述べるのは鳥許がましようございますが、滿五年木で約二十寸になるのが普通になつて居ります。所がボルネオにて極く地質の良好の所では三年六ヶ月で二十寸の木に

なります。それで普通四年木でありますれば採液することが出来ます。即ち十八寸の木が揃ふて居ります。それから樹の成育の模様を見ますと、馬來半島のは樹幹が圓錐形になつて居りまして、一尺程根から上に行きますと段々先が細くなつて居ります。タワオの木を見ますと是は圓筒形になりまして、漸次細くなつて居る所が餘り目立たぬやうに育つて居ります。是が著しく違ふ所でございます。それから此間或る御方の説に、さういふ工合に早く成育して早く取ることが出来るのであるから護謨の品質はどうであらうか、まあ素人で言つて見れば、水分の餘計ある液が出るのではないかといふ御質問でございましたが、是は一ヶ年取つて見ました成績に依りますと、却つて遅く育つた若木よりは早く成育致しました木の方が液の質が宜しいと思ひます。それから製造しました護謨を新嘉坡に輸出しまして、一年間續いて居りますが、矢張り是も一等品になつて、最上の品になつて居ります。先づ早く成育する護謨は液も宜しい、品質も宜いと云ふことを確め

ることが出来ました。それで此一ヶ年早くタツピングが出来ます故に、起業費の上に関係を持ちます譯であります。

それから椰子の方はどうであるかといふと、椰子の方も精しい數字はございませけれども、大體を申しますといふと、矢張り一年位は成育が早いやうに考へます。それから結びました實は所謂仁と申しまして、中がコブラになる油、是の幅が非常に厚ふございます。例へば馬來半島の方で三百箇若くは三百五十箇で一ピクルのコブラが出来ますものが、タワオの附近で出来ますものは二百箇か二百十箇位で一ピクルのコブラが出来ます。さう致しますと假りに實を結ぶ數は同じこと、しましても、仁が厚い爲に少くて同じ製品が出来るといふ譯になります。所で私の考は唯だ護謨とか、椰子とかそれだけで早く採液が出来るとか、早く結實するといふ利益だけかと言ひますと、成績に於て大した違ひではない。唯だ一年早く取れるといふ位では非常に面白いといふ譯にはいかない。唯だ此所に最も宜

しいといふのは、此土地では一年作が宜く出来る、土地が肥沃であります。例へば棉のやうなもの、或はインヂゴ、即ち藍、或は煙草に致しましても非常に良好のものが出来る。現に棉は安藤保太郎君が専ら研究中であります、是は必ず成功すると信じます。それから煙草の如きもスマトラと同等に出来ます。是も安藤君が和蘭人を雇ふて近頃やられて居りますが、是は立派に製品が出来ると私は確信致して居ります。さういふ工合に棉とか、煙草とか、藍とかいふものが出来る爲にどういふ違ひが出来るかと言ひますと、現今護謨を植ゑますのが段々進歩致しまして、成るべく幹と幹との間隔を廣く取ります。近來最も進歩した植方でありますと間隔を三十尺取ります。さうして縦を十五尺に取つて行きます。それは從來の經驗に依りまして、十五尺の間隔にしたのが段々進んで二十尺になり、二十五尺になり、遂に三十尺まで延ばして行つた。さうすると素人の考では、木が少くて多く取れるのはどうであるかといふ質問が能く出る。私も其考を始終持

つて居つたのでありますが、實地にやつて見ますと、木を少なくして太くする方が成績が好いするといふと若し三十尺の間隔を取りますと、其間約間數にしまして五間の間といふものを丸で遊ばせて置きまして、年中草を取つて居なければならぬ。それで植付まして二年間といふものは始ど日光を遮ぎるものがなくて、日光を遮ぎるものがないから益々草が生える、畢竟護謨に資金が要りますのは其草を取ります爲に掛つて行きます。所が一年で作物が出来ますと、其間隔の三十尺の間を二十尺位使用しまして、同じ草を取りますのに外の植物を植える、例へば棉を植えるとか、藍を植えますとか、煙草を植えるとかします。さうすると除草費が省ける上に尙ほ収益がある。此點が私は一番ポルネオに於ての特長と思ひます。唯だ護謨や椰子が一年早く育つから宜いといふことだけでは面白くありません之を計算しますと護謨に掛る費用を餘程補つて行くことが出来ることが、ポルネオに於て一番宜しいといふ一の原因だと思ひます。

土地と労働者

それから今一つは、是は馬來半島などで御起業なさる御方は始終苦しまなければならぬのでありますが、所謂労働問題、ちよつと労働者の數から申しますと、先づ初年に開墾します時には約四英反に一人位の労働者が要ります。それに病者の豫備を取りますと先づ三英反に一人位要るとしますと、三百英反に百人、三千英反に千人といふ位の労働者を使はなければならぬ。所が英國の殖民地では契約労働といふことを許しませぬ。獨り北ポルネオでは現に法律を以て契約労働といふことを許してあります。最初前貸金をやりまして、一定の労働時間を契約しまして、一定の賃銀を取定めて、さうして衛生設備、其他労働規則に適應したものを設備致しますれば、其契約を履行することは政府が監督してやつて呉れる。是は自由労働と同じことではないかといふが、尙相の上から見ますと大して違はぬのでありますが是は非常に實地にやりますと違ひになつて来る。と言ひますも

のは最も懶惰の馬來人、それから支那人を主もに使ひますから、法律の制裁がなくて多數の人間を使ふといふ時に大事業は逆も出来ないが、ボルネオでは一方資本家の方の爲に其契約を移民に向つて強制致します代りに、又資本家の方に向つては衛生的の設備、其他文化的の設備を以て人類に對する最上の待遇をさせるといふので、公正の位置に立つて資本家と労働者の中間に立つてやつて呉れます。例へばストライキといふやうなことは犯罪行爲であるから全部監禁するとか、處分するとかいふことをやつて呉れます。是に反して資本家が不正なことをすれば直ちに資本家が罰せられる。所謂公明正大に人を使ふのに労働者の義務といふものは極端に勵行させます。此一年の作物が出来る事と、契約労働といふことが一番ボルネオに於ける私は特點ではないかと存じます。

それから次に土地はどうなるかといふ問題がある。一應現在の所を説明申して見やうと思ひます。ボルネオでは御承知の通り井上君が先刻述べました通り獨立

した營利會社、丁度女皇陛下の五十五年に假會社を拵へまして、さうして此領土の絶對無限の統治權を會社に委任するといふ豫約が出来まして、さうして千八百八十八年の五月十二日に初めて皇帝陛下の確認した勅許が出て居ります。是に依りますと立法、行政、軍事、其他少しも本國政府の甚だしき制裁を受けませぬで、唯だ外國に對する重要事件、即ち宣戰、媾和といふ問題だけが幾分干渉を受けて居るのであります。其他いろ／＼箇條が澤山ございますが、少しも制裁を受けないで、此の會社は租税若くは總ての公納金を以て配當して居る。所が此土地の開発はどうかと言ひますと、千八百八十八年ですから、馬來半島が開けない位ですから、英國人としては住く者は多くなかつた。所が戦争が始まる數年前から獨逸人の着目する所となりまして、追々此所で仕事を始めようといふ處で戦争になりましたのであります。故に日本の事業家を歓迎しまして總督が認めて此人ならば土地を與へても宜しいといふ信用があつて、始め裏書をして倫敦に廻して、倫敦

の重役會議の結果で渡すといふことになつて居る。

氣候、風土、衛生

さういふ次第でありますから、ボルネオの農業のことに就きましては、實に前途有望と私は信じて居ります。既に一箇年間やつて見まして、まだ砂糖の如きは糖分の検定が出来て居りませぬから何とも此所で斷言は出来ませぬが、専門家の説では確に臺灣の倍額、即ち臺灣は一町歩に對して五萬斤取れるのが十萬斤は取れる。但し糖分がどなるか、或は又收穫時に雨期のあつた時はどうなるかといふので、之を試験しますのには私の力では二月置き、又は三月置き位で植えて置きます。何故さういふ試験をしなければならぬかといふと、一年中同じ時候でありませぬで、多少早期と雨期の差があります。それでありますから年中植えて置きますと、度々に植えまして度々に收穫致しますと、どの時期に植えたのが收穫が一番好いかといふ經驗が付きます譯であります。さうすると此月に植えれば良い

に違ひないといふことが分る。棉の方も安藤君の方でも私の方でも其通りにしました。當年は失敗をしましたが、安藤君の方も開花します時に非常な雨天でありまして、是が爲に收穫は少うございましたが、是も何時も雨が降るのかといふと降る時はかりはありませぬ。幾度にも植えまして何月にも收穫して見ますと、此月に植えればきつと良いといふことが斷言が出来ませう。それは安藤君の方でも試験中でございます。併し煙草の如きは歐羅巴人が經驗しまして、是ならば良い、斯ういふ風にしてやれば良いといふので、現に輸出中の重なる品としては護謨の次には煙草になつて居ります。是は試験済みの品物ですからきつと良いのだらうと思ひます。其他の作物でありますと、唯だ護謨、煙草、椰子だけの經驗で其他の植物に就いては外人が經驗した試しがない。唯だ土人がやつて居るのでございます。是は吾々が進んで各種の植物を植えまして、今年から來年まで試験をしたらば報告が出来やうと思ひますが、必ず良いといふことは申し上げられませぬ。果

してどの位良いであらうか、又護謨に就いてはどの位企業費が掛つて、どの程度まで行くかといふことは來年にならなければ御報告申し上げられませぬ。或る程度まで良いといふことは斷言することが出來ます。

それから時候はどうであるかといふと、此所に私が連れて行きました佐野と云ふ醫學士が此二月から行きまして、初めて自分の診察所で自分が測候致しました表がございます。ちよつと其前に申上げて置きますが、私の方の病室と申しますものは極く矯少な、英國人の建つて居つた其儘の平屋でございます。私の宿に比較しますと非常に暑い、私の居ります家とは一度や二度は違ひます。併し其暑い所で取つた方が間違ひなからうといふので此一月から取りました。一月の午前八時が七十四度、午後二時が一番暑ふございますが、是が八十六度、それから二月が午前八時が七十二度、午後二時が八十五度、それから三月で……矢張り臺灣と同じで、三四月が一番暑いやうであります。其三月に午前八時が七十四度午後

二時が八十度五分、それから四月が午前八時が七十七度、午後二時が八十九度七分、五月が午前八時が七十六度八分、午後二時が八十七度六分、それから六月が午前八時が七十五度五分、午後二時が八十七度三分、それで一月から六月まで平均しまして、最高が八十八度五分、最低が七十三度六分でございます。それから雨量は西洋人の調べました統計は澤山ございますが、どうも是は信用がちよつと出來ませぬので、三月に正確な機械を備付けて私の方で試して見たのは三月から六月まで取りました。大正六年の三月で一五五、三ミリ米突、四月が九三ミリ米突、五月が五五ミリ米突、六月が一五二ミリ米突、所が當年はどういふものでありますか、南洋全體、馬來半島まで非常に雨が多かつたので、六月に一五二などいふことは殆ど例外ださうであります。六月あたりは五月の五五位にならなければならぬのでありますが、餘程一體に變徵を來たして居つたやうな工合でございます。それでありませぬから、勞働者の方も餘程衛生状態は宜しうございます。

詰り此所に連れて來ました労働者の健康上の状態が出て居りますが、摘んで申しますと、日々診察を受けに來ます者は上陸する時に體格検査をし嚴重にしまして病者と衛生不良といふことが名簿に附いて居ります者が皆診断に參ります。極く最上の健康者として居る者は曾つて健康を害して居る者はありませぬ。主もに其健康體の診察に來ます者は風邪を引いたといふ位なことで、名前の附くやうな病氣は身體検査中に不良の軀の者だけであります。少しも日本人の軀に健康が悪いといふことはございませぬ。現に私は昨年も當年も居りましたけれども、曾つて病氣になつたことはないのをごさいます。

先づ是位のことを申上げて置きまして、尙ほ御問ひ下さる點があれば御答申します。

北ボルネオ會社に就て

臺灣總督府秘書官

鎌田 正 威

南洋の土木と水利

此の度私は總督府から水利事業視察を命せられ南洋地方に參りました外國を見たのは始めてであります國外に出ると申せば臺航灣路で國外に出て居りますが國外の國土を踏んだのは今度が始めてであります、觀るもの聴くもの總て私には深い興味を以て充たされました、大小の失敗も致しましたが同時に非常に利益する所も尠ならず覺へるのであります、而して其の觀た所を話せと云はれますと困るのであります、感じて來たのみであります、觀た所を話せと言はれますと印刷物を讀み之をよく消化した後でないと話が長くなるから、私は感じた丈の事を

話すので折角御集り下さつたけれども別段長くなることはないであります、吾々が今回彼方に参りましたにつき第一に申上げた事は各國共親切に取扱つて呉れた事で吾々は各國政府及人民に對して非常に感謝致します、在留日本人は又格別親切にして呉れ吾々は非常に感謝して居るのであります。旅をするときは親切にして呉れる程有難いことはないのです、吾々も國外の人は是非親切に待遇したい又諸君も吾々が親切にされたと云ふことは背後に諸君があつての事でありますから諸君も外國の人を同様に親切にされんことを此の機會に願つて置きます。

私の大體視に行つたのは水利事業であります、夫れに關聯して土木事業を見ました、土木事業の事を申しますならば之を唯感じた丈で何處も道路が非常に發達して居ります殊に第一の比律賓は非常に道路の完備した所であります。ボルネオは道路はありません併しながら市街にはマカダム道路と云つて堅き街道があります、馬來半島に行きスマトラ、爪哇に行くと非常に良い道路があつて四通八達

して居る事は誠に意想外に感じたのであります、序を以て私の目に影じた特徴を概括すれば比律は道路と麻、椰子（比律賓は面白い所でダンスの非常に流行る國である）。ボルネオに於きましてはノースボルネオ會社とジャングル。馬來半島に於きましては護謨及錫。スマトラに於きましては道路と護謨、茶煙草。爪哇に於きましては道路と水利事業。水利事業は非常に能く發達して居りますそれに關聯して土地制度と云ふことを感じました。

爪哇に於きましては私有財産と云ふものを認めません是れは英吉利政府がナポレオン戦争の時に爪哇を占領した際私有制度を建てた場合に得たるものと土人會長より直接土地を得た僅少の例外を除く外土地は總て政府に所屬し人民は土地を持つて居りません、社會主義者から言へば誠に結構な國で土地國有制度が行はれて居る次第である爪哇に付ては土地制度を研究したいと思ふて居ります。

吾々は馬來語をやらなければならんと云ふことは頻りに唱導して居りますが未

だ和蘭語をやらなければならんと云ふことを聴きません、ドウしても吾々は少くとも此の土地の事情を知り色々な事業に於て彼我の關係を結ぶならば是非共和蘭語をやらなければならん、又爪哇には印刷物が非常に豊富で贅澤に發行してありますから和蘭語を知ると非常に便利で和蘭官憲と交渉するに於きましても意思の疏通が容易に出来て良いやうであります、私は中學以來苦心して習つた所の英語を今度は始めて實用に供することが出来ましたが英語も成程和蘭人は知つて居りますが米國人なり或は英國人でありますと吾々は片言の英語を話しても了解して呉れます併し和蘭人は完全の英語ならば了解して呉れますが不完全の英語は徹底しない、三井の人に聴いても和蘭語はやらなければならんと云ふことを言つて居りますスラバヤの三井の支店長は一店員を割いて専ら和蘭語の研究に従事せしめて居ります和蘭語を研究すると何か維新前に溯るやうで既に頽れたものを研究するやうであります、實際和蘭人が此の領土に居る以上はドウしても和蘭語をや

らなければならん馬來語も必要であります和蘭語も更に必要と云ふことを頭にに入れて貰いたいのであります。

本題に返りましてノースボルネオに就きましては前に概括して申した北ボルネオ會社とジャングル是れ丈け言ふたら足りませんジャングルと言へば森林數澤此のボルネオは太古以來の原始林を以て蔽はれて居ります、私の世界の始めの状態はどんなものであるか色々想像致して居りましたが世界の原始天然の状態はまあこんなものであると云ふことをボルネオに於て觀ることが出来たので非常に愉快でありました、此のジャングルの有様は前に阿部君からタワオのところで話されて御承知と思ひますが兎に角手が着いて居らんと斷言して良いので御座います。

もう一つはボルネオ會社はれも始めから地理でも勉強して居れば分つて居るのですが私はそれを知らずに非常に面白く感じましたと云ふのはコロンブス時代以來東西兩印度を發見せられ南洋方面には東印度會社が出来ました、其の會社が商

業の事のみならず政治を行つたと云ふことを歴史で覚えて居ります。会社が政治を行ふと云ふことは現代の國家觀念の頭に浮んで來ない、併しながら北ボルネオは其の会社が經營して居るのであります。現今會社で政治をして居るのは世界に二つありてノースボルネオ會社は其の一つであります。是れは元々英國と和蘭との勢力範圍につき一千八百二十四年英蘭條約によりまして英國は島國に手をつけない總て和蘭の勢力範圍がする同時に和蘭は大陸を英國の勢力範圍として之に手を着けないことになつて居つたのであります。所が其處に冒險家が現はれましてサラワク王國及ノースボルネオ會社が起つたのであります。其處で英國は是れは英國が直接に所有するのではない政府は知つたのでない併しながら個人がやつたのである、英國政府は英蘭條約に由つて明なる如く與り知る所でない併しながら其の個人がドウか英國の保護を受けたいと云ふから保護國として居ると云ふに過ぎないのだと云ふ譯で今は英領と云ふやうに認定して居ります。

北ボルネオ會社と英國政府

サウ云ふ風に形式は會社の領土であるから其の依頼に由つて英國が會社を認めてそれに勅許を與へたのであります。此の勅許の命令條項の大體の内容を一寸申上れば

英 社は會社の成立を認許す、會社はサルタンとの約束を實行しなければならん。會社の人格及び其の住所は英帝國たるを要す、英國に事務所を置かなければならん、會社の重役北ボルネオに於ける會社の代表者は英國臣民でなければならん、會社の權利の一部又は全部を讓與する場合は英國國務大臣の認可を要す、會社とプルネー又は其の間に争ひの起つた場合は英國國務大臣が裁判する、外交方針は英國と意見が違つたときは英國國務大臣の意見に従はなければならん、奴隸制度を作つてはならん、土民の宗教に干渉してはならん、司法裁判は土人の習慣に注意してやれ、英國が若し治外法權を行はんとするときは會社は夫れが爲め會

社の費用で法廷を設くべし北ボルネオに於ける会社の代表者の選任は英國國務大臣の承認を要す、それ以外に於ては北ボルネオ会社は國の内外に對して一般的に權力を有す、即ち土地を開發し事業を起し移民を奨励し鑛業權及森林權其他の權利を特許し或は來將公債を起し商業を營み船舶を管理し英國殖民地に代理者を派遣し收入の目的にて關稅を設くることが出來ると云ふやうに一般的に許可になつて居ります、會社は定款を作つて英國上院の承認を受けることが出來ます、定款は變更することが出來る此の勅許は英國政府、海陸軍、領事、殖民大臣、國會至る所に於て承認せらるべきことを宣言し若し勅許狀に疑義あるときは殖民地に對し最も有利に裁判せらるべきを明言し且つ宣言す

之は一千八百八十一年の勅許狀で今より三十八年前一千八百八十九年英國政府は北ボルネオの状態が恰も國家の如き有様であると云ふ譯で會社で支配せられて居るものをノースボルネオ國と稱へることになつて其の北ボルネオ國は英國の保

護領たるべしと致しました一千八百九十一年には和蘭と境界を劃定致しまして一千九百十年にはサラワク王國と境を隔離致しました、今申した中に土人會長との契約を實行しなければならんと云ふことがあります夫れは何かと云ふとボルネオは各地の會長がマホメット教に屬してサルタンの支配に屬するので、其のサルタンから領土權を讓受ますボルネオの名は此のブルネーと云ふことから轉訛致しましたのであるが此のブルネーのサルタンが勢力があつたのであります今は米國領のホーロー島にサルタンも居りますが之も勢力を有つて居つたのであります此のホーロー島のサルタンは野蠻人であり、海賊であります之れが非常に横行して此のボルネオの沿岸を始終荒らし廻つたので、今にしてノースボルネオがヂヤングルの状態にあるは一つは此の海賊の跋扈した爲めではないかと思ひます、此サルタン及種々の小さな會長があります夫からして英國人たる冒險者が領土權を獲得たので年金を五千圓乃至六千圓或は一萬五千圓を與へて居ります若し其の年金

を繼續して支拂は無かつたならば領土をサルタンに返還する約束をして居ります、此のボルネオのみならず馬來半島及諸島は皆サルタンの領地で到る所即ちスマトラ、でも爪哇でも總てサルタンの領地でありまして、和蘭政府なり英國政府なりサルタンを立てまつりましてそれに年金を與へまして領土權を納めて居る馬來半島にせよ馬來聯邦州、馬來獨立州總てサルタンを奉りまして實は英國が權力を握つて居りますので爪哇に於ては二箇所にサルタンを奉つて置きますボルネオも總てさうであります。

斯の如くでありまして一千八百二十四年の英蘭條約に基きまして英國は島國に手を着けない和蘭は英國に手を着けないと云ふことになつて居るに拘はずボルネオにサラワクが出來たので和蘭政府は急に各地のサルタンと條約を締結したのであります、此のサルタンを立てますことは非常に面白く感じましたので、私は實際に行きませんから知りませんが暹羅もドウやらどつかの國の勢力範圍

になつてしまひさうである早晩なつてしまふこと、想像して居ります、ノースボルネオ會社に付きましては私はサウ云ふ事實に興味有つたのであります。

北ボルネオ會社の行政組織

其の行政組織はドウなつて居るかと申しますと北ボルネオ國の最高行政機關は倫敦にある、北ボルネオ會社重役會が最高行政機關であります現今の社長はウエスト・リジユエー卿と申します三年に一回英國から北ボルネオに巡視に來ます、會社は北ボルネオに總督を置きます、總督の選任は英國政府の承認を要す總督は北ボルネオに於ける行政の長で兵馬の司令官である、官吏を任免する權利を有して現今の總督はエ・シビアソンで四十二歳であります、此の人は二十一歳のときにサンダカンに奉職して引續いて北ボルネオに居りまして總督になりました此の事は前に加福君からカデットシップと云ふことに付て御話しましたやうに上なる人は段々下からあがるので、其の土地に長く居つて其の土地の事情に通じた

人で腕前のある者が次第に拔擢せられて上の地位に上るので、總督に選任せらるゝことが極まれば副總督となり英國の各殖民地を巡視する一千九百十二年にピヤソンは副總督となり一千九百十五年から總督になり年俸一萬六千圓を受く總督は年期はありません

立法機關と致しましては官吏委員が九名に非官吏委員が四名十三名になつて居ります、政府委員九名は總督、民政長官産業局長、警視總長、財務局長、税關及國債局長、西海岸長官、サンガタン長官、衛生局長皆官吏の委員であります非官吏委員は歐洲人の團體から一名支那人の團體から一名西海岸の團體から一名東海岸の團體から一名大概歐洲人です是れで立法機關を造つて居りますので、即ち事實諮問機關であります。

司法機關は高等裁判所、司法局裁判所、第二審裁判所、第一級即決裁判所、第二級即決裁判所から成つて居ります。

總督以下の行政機關に於きましては民政長官（年俸七千八百圓）警視總長が（年俸六千七百圓）監獄長は警視總長が兼ねて居ります、財務局長（年俸一萬圓）衛生局長（年俸一萬圓）税關及國債局長（年俸七千圓）鑛務局長は税關長が兼ねて居ります、土地局長（五千二百圓）測量局長（六千圓）移民法局長（三千九百六十圓）印刷局長（一千七百八十圓）郵便電信局長（五千百圓）土木局技師（五千四百圓）專賣局長（一萬圓）又地方を五つに分けて居ります西海岸長官（六千六百圓）サンダカン長官（代理四千二百圓）クダト長官（代理三千九百六十圓）東海岸長官（事務取扱四千五百圓）内部長官（四千八百圓）であります。

書記以下の役人は總て支那人、印度人を用ゐて下給者としては英國人は甚だ少ないのであります、東海岸長官のアーピングと云ふ人はタワオに大關係を以て居る長官で此のタワオは久原に據つて開拓せらるゝことに由つて有望になつて來ました茲に東海岸の都を移しましてタワオに持つて來ました、恰度其の狀態が日本

の奈良朝以前に克く帝都を選した云ふことがありますが斯う云ふやうな状態でないかと云ふことを想像しました、此のアーピングと云ふ人は大變勇敢な人でありまして人望があるので種々久原と労働者と誤解があつたときにアーピングが身を挺して判決をした其のアーピングの下には支那人の書記が一名、印度人の巡査、兵卒が二十五人で事務をやつて居ります、裁判から地方行政から凡て一人でやつて居ります。

北ボルネオ會社の財政状態

北ボルネオ會社の財政は歳入が約二百萬弗、歳出が百萬圓であります、それで歳入の主なるものは關稅の收入が第一酒及阿片稅之に次ぐ此の中で關稅は土地が開けないから政府の收入が非常に少ないので成丈高稅を掛けて居ります、殊に獨逸品に對しては普通の二培三倍を掛けて居ります、酒及阿片稅で阿片のことは曩きに梅谷君が御話し致しました如く日本でやつて居るやうには決して土人を心配

しない、禁止するとか漸禁をしないので只阿片を高く賣るに由つて制限の口實を設けて居るので、是れは甚だ土人を人間扱ひにしない人道に添ふた遣方でない、少くとも比律賓では禁止して居ります、少くとも人道に基いた難有い制度と違ふと云ふことを思はれました。夫から賭博收入も最大であります盛んに賭博をやらせて賭博の收入を利用して居るのであります。夫から歳出に付てはサルタンに對する歳出が三萬五千圓あります。

ボルネオ島全體は長さ五百五十哩幅百哩面積が二十八萬平方哩であります、恰度日本全體の本土、朝鮮、樺太、關東洲、臺灣を加へた上に更に九州をマウ一邊加へた大きさと同じであります恰度臺灣の二十倍になります、其の中で北ボルネオはどの位あるかと云ふと臺灣の二倍より少し大きい面積が三萬千方哩、人口は二十萬人英國人は約三百人でありまして此の三百人の英國人が臺灣の二倍の面積を統治して居る。如何に北ボルネオが開けて居らないかと云ふことが分かる夫れを

開拓するにはドウしても非常な資本を以て來なければならん、然るに是れは會社の費用では資本を澤山注ぐことが出來ない會社も利益は擧げて居りません、一千九百十五年迄は漸く資本に對する三分五厘の收入を擧げたので御座います此の北ボルネオの事業は將來にありと云ふことで、會社の重役は株主を納得せしめて居るのであります兎に角然う云ふやうに資本を注ぐと云ふことをしない之れが英國の非常に大きい所で、英國は外に爲すべき仕事は澤山あつて北ボルネオは顧みることには出來ないのであります従つてそれを開拓する人が必要になつて來るのであります、ドウしても此の開拓は英國でやらんとすれば不便で又英國がやれば馬來半島あたりにやる方が便利で、其の英國人の不便とする所は日本より云へば最も近く最も便利でなければならん若し之れを日本人が開発しなければ何時迄經つても開發が出來ないと思ひます、それで北ボルネオ會社の當局は固より英人は自分で移住しやうと云ふことは毛頭有つて居らない、唯富を擧げやうと云ふことを考

へて居るので種々補助金を與へて支那其他より労働者を連れて來ることを頻りにやつて居ります、又久原のやうなものがやると小さな人が來ないと云ふ虞があるそれで大經營者に成るべく不便な所を選ばしめて海岸の交通の便利な所は個人の小經營者の爲めに除けて居りますサウ云ふ風な政府の態度であります是れでザツとチャンネルと北ボルネオ會社の状態が御分りになりましたこと、思ひます序を以て此の旅行によつて得たる所感を二三述べます。

第一北ボルネオのやうな不便な所にも拘らず戦争前には獨逸人は非常な勢力を以て居りましたダアビー會社があります是れは以前獨逸人の會社でありましたが歐洲戦争の御蔭で獨逸の勢力がなくなりましたによつて漸く勢を恢復したのであります到る處に看板が塗り換へてあるのが目につきます下は獨逸の字で其の上が英國の名前を書いてあります、斯う云ふ風に如何にも獨逸の遣方は非常に豪い所があつて獨逸の遣方に付て研究してあゝ云ふ獸的な性質は兎に角として獨逸の組

織的の發達の長所に付て學ばなければならんことを深く考へました、それは北ボルネオに限らず新嘉坡、蘭領印度に限らず總てさうであります、兎に角獨逸は非常によつて居つたと云ふことが想像が出來ます。

第二に茲に居る支那人に付ては先刻梅谷君から御話しましたが支那人は非常に澤山居るので、是れは殆んど商賣人で支那人は非常に勢力があります同じ事を私は反對に見ました、若し支那人がモツと確つかりすれば此の西洋人を驅逐出來たのである然るに漸く一部丈しか居らない、寧ろ甚だ支那人の勢力の微々たるに驚いたと云ふ事があります、と云ふのは北ボルネオに高い山で一萬四千尺もあるキナバル山と云ふ山がありますキナと云ふのは支那と云ふことでバルは寡婦のことで支那の後家山と云ふ名であります北ボルネオで發行して居る紙幣にはキナバル山の繪を書いてあります又キナバタンガンと云ふ北ボルネオの第一の河があります之も支那の河と云ふ意味であります其の他此の邊の土人が非常に尊重する寶物

で青い甕がありましたして龍を書いてあります、是れは數千圓の價があるのであります、ドウして斯う云ふ物があるかと云へば支那の忽必烈時代にボルネオを征伏したので其時代は一千三百九十九年であります實際支那からボルネオ迄の交通は何んでもない況んや忽必烈當時に征伏したのでキナバル山とかキナバタンガンとか名前が残る程でありまして若し支那人にしてもつと有力な國民であるとすれば此の邊の開拓は充分出來たのであらうと思ひます然るに何ぞや僅かに一部を保つて居るのは寧ろ心外に堪えない次第であると思ひます

第三實際吾々は行つて感じましたのは（歴史で讀み地理で學びて分りて居る筈であります）が今更の様に強く感じたのは（色の黒いのも少し黒いのも兎も角多少色の着いて居る東洋人はどれも之れも西洋人の奴隷となつて居ることであり、其の中同じ少し色の着いて居る日本人が西洋人に對抗が出來て居るのが不思議に堪えない獨り吾々丈がよく對抗して居るのがドウも不思議であると感ずべく餘儀

なくせられたことであります。

現今の支那は列國の均勢に由つて獨立の體面が保たれて居るので實際の獨立は斷言することは憚るのであります、東洋人は日本人丈で斯う云ふと甚だ失禮のやうですが日本人が獨立して居るのは不思議な感じがしたのであります、此の事を考へれば何故にサウ云ふことになるか結局一致團結の精神が日本人の特色でありまして縦へ物質的の文明は劣つても此の中に團結の精神がありましたからそれが立派に發露した所以のものと結論されます、比律賓人は比律賓を以て今は東洋の三大國の一とか云つて居りますが人種は八種類位になつて居りますが現今は英語に由つて漸く統治されんとしつゝあるので未だ嘗て獨立したことのない國であります、爪哇も印度もサウで縦へ幾ら物質的文明が良くも一致團結がなければ國を成立することは不可能であります。我日本は天地自然の理に基きまして一致團結がありますそれと同時に今の世界を觀ますと吾々の状態は安心の出來ない状

態で此の團結心を益進めて行かなければならん、獨逸の如きは能く研究して彼の長所を採り學ぶべきは學び大に一致團結しなければならん即ち官民一致をもつとやらなければならんことを感じたのであります上の方の官吏は兎に角下の方の官吏は成るべく人民と接觸することを避けて居る傾向があります、國力の發展はドウしても官民共に一致しなければならん吾々は之れから遠慮なしに大びらに官民の一致協力に力を盡くしたいと云ふ氣がせられました、それと同時に吾々は官吏として居る以上は益人格を磨く必要があります疑はれることを恐れては合同が出來ない、片一方に於ては益人格を高め多少疑はれても構はずに大に合同してやらなければならんことを痛切に感じました。

第四に何處に行つても吾々は一等國民で吾々も相當の官吏でありながら自動車の一つも持つて居ない富の程度であります、是れは南洋を旅行したので歐米本國を視ませんから或は誤つて觀察か知れませんが兎に角もつと富豪にならなければ

ならない、官吏ももつと給料を殖やしてやらなければならんことを感じました。

案外凌ぎ易い南洋の風土氣候

第五要するに人間到處在青山で吾々は是から南打狗に行きますと暑さを覺えます、此の勢で南に進めばどんなに暑いだらうといふ想像で南洋に行きました所が豈計らんや非常に涼しいので夜は新嘉坡で風を冒きました晝は臺灣と同じやうに暑い、夜は非常に涼しいので赤道直下でもサウ暑くない少くとも臺灣に辛抱出来る人は（固より日本内地程佳い所はありませんが）何處に行つても辛抱が出来ます、吾々が南洋の風土氣候誤解して居ることは、恰度内地の人が臺灣を想像して臺灣に行けば生蕃が出るやうに思ひ臺灣は非常に暑い人間の住む所でないやうに感ずるのと同じ撤の誤りに陥つて居りはしないかと思ひます之は或は熱帯と云ふ文字が觀念を誤らしむるに力ありと思ひます温帯よりは少し暖かい即暖帯と名づけた方が適當であらうと思ひます要するに人間到所在青山であります。

第六、一葦帯水と云ふことがあります茲で一葦帯水と云へば對岸の福建省を指すのでありますがマニラに居る日本人は吾人を歓迎した時の言葉に臺灣と比律賓とを一葦帯水にしてしまいました私は柴棍から神戸に直航しましたが十四日で神戸迄参りました而も船足の遅い貨物船であります非常に海が穏かでありました海さへあれば均しく一葦帯水で自分が船に乗つて實驗する所によると日数が少し掛かる位の差で大したことはありません即ち海さへつゞいて居れば一葦帯水と云へることあります。

最後によく問題になる日本の娘子軍のことです南洋に日本人の女郎が澤山行つて居る、之れを止めさせるよりも早く男が行けば問題が自然に消滅すると思ひます新嘉坡にも澤山あり非常に發展して居る、以前に新嘉坡の女郎屋で日本人に登樓せしめたものは二軒か三軒位であつたが今や各女郎屋は日本人の登樓客を以て充満されて居ると云ふも過言にあらずである新嘉坡には熱者も居りま

す是れは日本人が居なければ繁榮が出来ないものであります、佛領印度支那の西貢には日本人は女郎を外にしては僅かに雜貨屋が一軒ある位で三井と雖も香港から出張して一時滞在して居る位である、然るに茲には大邊な富が充滿して居りますが私が行つたときも日本の商船が八艘許り居りまして盛んに柴棍米を積んで居ります其の結果は女郎屋は全部日本人によつて占領せられて居ります兎に角南洋の女郎を惡口言ふよりも男が行くことが最も肝腎と思ひます、サウなれば自然問題がなくなること、思ひます。

セレベス島事情

柱本 瑞俊

セレベスの一般

今日御招待に與りまして御話することになつたのでありますが、未だ斯ういふ席で御話も申上げたことは一度もございませず、今晚が始めてとございます、さういふ次第で一向言葉に足りないところがございますし、其上自分の頭腦が悪いものでありますから研究したいといふこともございませぬし、御参考になるやうなことは何んにもないと存じまして、折角御招き下さいまして御氣の毒のこと、思ひますが、豫め御断り致して置きます。

恰度私のセレベスに参りましたのは今から三年前でありまして、セレベスのメ

ナドといふ一番北東の日本の方角に近い所に参りました、さうして農園の方をやつて居るのであります、今日まで居りましたのでございます、最近特に中部セレベス、此邊を（圖を指し）巡りました。

話の順序と致しまして位置から申上ります、もう分り切つて居ることでございますが、蘭領東印度の地を御聞きになりますれば、一番能く眼に付きますのは真中のボルネオで、其東に當りましてK字の形になつて居りますのがセレベスであります、其大きさは北は北緯の二度、恰度岬の突角が二度で、南の南緯の七度餘りの所まで及んで居ります、さうして東經は百十九度邊りから百二十五度までに跨つて居ります、彼アいふ具合に恰度海盤車片足一本取つたやうに細い山脈が四方に出て居ります。

面積は七萬二千七十七平方哩になつて居ります、日本の本州が、八萬六千九百五十平方哩になつて居ります、北海道は三萬三千四百平方哩、是に比較して見ます

と、恰度日本の本州より少し小さい、北海道の二倍強に當つて居るやうな大きな面積の島でございます、島とは云ひながらなかく大きな土地でございます。

其次に地形を申し上げます、中部セレベスと申しますのを中心に致しまして、北の方に出て居りますのは北セレベス半島と名付けて居ります、さうして東の方に中程から出て居りますのをルオツク半島、南に垂れて居りますのはマカッサ半島東南の方に垂れて居りますのがケンダクー半島と申して居ります、此四つの半島が何ういふ地形を成して居るかといへば、中部セレベス邊は山に蔽はれて居りまして、二千米乃至三千米突まで高さが登つて居ります、非常に高い山であります、世間に二百米突或は二千米突であるとかいふ高さの高臺が所々に挾つて居ります、それから北の方にズット山脈續きで突角の所まで延びて居ります、それからルオツク半島に同じく二千米突の高さの山が延びて居ります、さうしてケンダク半島の方も山脈で蔽はれて居ります、唯だマカッサ半島だけが割合に平原があ

りまして、一番南の端にセレベス中で一番高いルンポーバタン山と云、舊火山でありますが、火山が此處に突起して居りますそれだけで比較的平地に富んで居りまして、外の半島は全部大きな山に蔽はれて居るのでございます、さうしてセレベスの南から北にかけて、火山系が貫通して居ります、御承知の通り爪哇は非常に火山に富んで居ります、比律賓も火山系に當つて居ります、是が恰度セレベスを通じて一致して居ります、従つてセレベスには火山が多く、活火山と見るべきものはないが、舊火山でありまして、其中には極く僅かづ、噴火して居るのも御座います、或は温泉の状態になつて遺つて居ります、中部にも北にもあります、此火山の作用に依りまして出来ました、所謂火山灰に掩はれました土地が、セレベスでは一番地味の良い地帯のやうに私は見て參りました、外の地層片般岩或は花崗岩等の地層もありますが、特に火山灰地方の土地が一番肥えて居る、北海道地方では火山灰の地方は作物が出来ぬといふことを聞きましたが、セレベス島

のは細かい灰で大層植物には良いやうでございます、大體唯今申しました火山系が南から北とズツト通つて居りますので、恰度斯ういふ具合になつて居ります、メナト附近からさうして此邊へかけまして火山灰に掩はれた土地が澤山ございます、其土地が一番良くて、外の土地に勝れて居るといふことを御承知願つて置きます。

氣候 風 土

それから次に氣候のことを申し上げます、氣候は恰度熱帶圈の中に位置して居るのでありますから暑いのは當然であります、南洋と申せば大變暑さが酷しくて住むのにも堪へられぬやうな所であらうと御考へになるであります、熱帶圈の下は却つて左程でもないであります、殊にセレベス邊は山地でありますから、海岸地方では攝氏の二十四度から二十三度位の範圍でございます、尤も是は本島内の彼方此方で調べて居ります結果でありますから間違のないところでござ

います、其海岸地方の二十三度乃至二十四度位の温度をば一年中殆ど變化なしに通して居る譯でありまして恰度熱帶圏の中央に當つて居る爲めに晝夜の差は僅かしかないのでありますから、一日は十二時間晝で十二時間夜といふ具合になつて居ります爲めに、大體一年中通じて氣候の差は殆どないのでございませう、さうして地勢は山地でありますから海岸から僅か陸地に入りますと直ぐに山があります、それで山へ登りますと御承知の通り百米突が攝氏の二分の一度といふことになつて居りますから、二百米突登れば一度宛温度が降るといふことになつて居ります、それですから千米突二千米突にも登りますと十度位降る譯でありますから、吾々温帯に慣れました者でも氣候の點に就ては、他の熱帯の平原地方よりは生活し易い良い場所でございます。

次に雨量は、恰度セレベスを半分に分けまして北と南とで氣候の差がある譯であります、北半分の方は一年中雨が殆ど平均して居ります、乾燥期と雨期との

差が僅か許りでありますして非常の差を示して居りませぬ、さうして南の方の半分は乾燥期と雨期との差が確然と分れて原ります、是は申すでもなく熱帯地方のモンスーンといふ貿易風、西風東風の變りがございませう、其影響を是れから下へかけて受けまして、是から上の方は餘り影響を受けない結果であります、即ち西風に入ると雨が多く、東風になると雨が少ない、西風は十一月十二月頃から一二月にかけてかけまして、季節でありますから、其時分には雨が多い、反對の四五六七八九月にかけては乾燥期になります、譯であります、最も其中の五月前後が一番乾燥致します、矢張り此北の方に於きまして多少其影響を受けまして、所謂日本の冬の時は雨が多くて、其の時節は雨が少ない譯につて居ります、雨量は一般に一年を通じて二千ミリメートル前後、多い所でも二千三百ミリメートル位のもので、少なくとも二千ミリメートル前後といふことになつて居ります、特に此處に細く入りました溝があります是は此方の雨の季節の爲に造られました、それが

爲めに大變乾燥する場所になつて居る、此處は平均して年に三百ミリメートル位しか雨が降りませぬ、此處は特殊の場所でありまして、一般は二千ミリメートル位になつて居ります。

人口と住民

其湿度の點は、ボルネオ地方は行つたことはありませぬが其の海岸地方は船で通りまして寄つ見たのであります、熱帯の平原になりますと大變湿度の多いのは普通のやうであります、ボルネオなどは極く水乾きの悪い低地の爲めに、健康に良くないといふやうでございますが、先程申しましたやうにセレベスは山地形の爲めに、さういふ湿度の點がない、是は何度になりますかさういふ統計に取りましたものを参考に持ち合せて居りませぬ、唯今申上げることは出來ませぬが、大體健康上湿度は差支へない、大して乾燥に過ぎず、濕氣に過ぎず、丁度中庸を得て居ります、唯だ山へ高く登りますと、氣温の作用で、湿度が濃密になつて參りま

す。

それから風であります、先きに雨のところでも申しました通りに、夏半分が東風で冬半分が西風といふ貿易風の影響を受けて居ります外には、地方的に一時雷を起すといふやうな場合を除いては殆ど風といふ程の甚い風は吹かないのであります、是は御承知の通りに赤道を中心にして二十度後の所から強い風が起るのでありますから、熱帯地方では暴風といふものはない、それで一年を通じて船の航海を妨げるといふやうな風は殆どない、唯だ西風になると始終此方の海が波立つ、東風になりますと此方が波立つといふ位の程のものであります、恰度季節風が變ります時分に、即ち西風が東風に、東風が西風に移ります時分に、彼方此方に地方的變化を起しまして雷鳴が起ります、それが定つて仕舞ふと雷鳴はないやうでございます。

それから次に住民に就て申上げます、セレベス全島の人口は未だ完全な調査が

行届いて居りませぬ、又色々の事情が原始的に近い場所でありますから、調査が行届かぬのも無理はない、千九百十二年度の報告には二百六十七萬七千六百九十一人前後といふことになつて居ります、之を一平方哩に割當てますと三十七人位の割合になります、最も人口が稠密して居りますのは此マカツサ半島平原部であります、一平方基米突に就きまして五十人乃至百二十人、是れからメナト地方、是は次に人口の多い所でありまして、一平方基米突二七五人乃至五十人、さうして中部セレベスから此邊にかけてはズット減りまして、一平方基米突十人以下位、又殆ど一平方基米突内に一人も居らないといふ譯であります。

物々交換

住んで居ります人種は馬來種マレーであることは申すまでもないことであります、アツフルとトラジャ、マカツサ、ブギズ、此四種に分たれまして一寸語は横に入りますが、よく本にはメナト地方をアツフルと名付けてあるのもございしますが、

實際行つて見ますと此中都セレベスから東にかけての半分はアツフル人種が多い、マカツサ人種も少しは居りますが、大部分はアツフル人である、其次のトラジャ人種は中部セレベスから西半分に住んで居ります、それからマカツサ人種はマカツサ半島に住んで居ります、ブギズと申しますのは是は到る處の海岸地方に居りますが、元は此灣をボニー灣といひまして此の邊が起りとありまして、此灣からマカツサ半島にかけては其の他各地の海岸に澤山居ります、一般に就いて特長を申し上げますと、アツフル人といふのは中部セレベス地方に居ります分は、一般マレー人種と體格も餘り差はない、まづ南洋土人として體格は普通より少し良いと言つて宜い位の體格で、其言葉は、(尤も言葉の點に就ては非常に地方的になつて居りますが)アツフルの使つて居りますのはマレー語を使つて居る、生活状態は極く原始的でありまして、山の中の不便な場所に割據して居りました遺風を有つて居りますから、未だに不便な山奥に住んで居るので、此

地方が和蘭の政治が敷かれるやうになりましたのは恰度二十年許り前で、漸く政治が行届いたのは近年のことでありますから、従つて何も分らない、原始的でありまして、詰り和蘭政府の政治が布けます以前には首狩などもやつたもので、矢張り臺灣の生蕃と同じやうな性質を有つて居る、部落々割據して其酋長に従つて掠奪をたり、婦女子まで搔凌つて行くといふやうな生活をして居たのであります、先達て私が此處に参りました時分に彼方此方の年老或は有力なものから色々面白い話を聞きましたが何んのことではない臺灣の生蕃と同じ風習であります、其首狩にも色々理窟がありましたして、自分の部落民が一人死ぬと、自分の村の勢力を一人失つたから他村に對して權衡が取れない、それだから一人殺して來るといふ譯である、又病氣で死んだといふに就ては迷信で何か神様が殺したんだから神様の御怒りにならないやうに外の人間の首を祭らなければならぬといふやうな理由等が彼等相當にあるやうであります、兎に角首狩等をして居た人種であります、

併し唯今では私が旅行して見ましたところでは決して兇惡の性質ではございませぬ、大變温良でありまして、正直であります、働きの方は餘り勤勉ではありませぬ、決して粗暴な犂惡な人間ではないのであります、ポツ／＼教育を受けて居りますものの中にはございしますが教育された土人などは大變頭腦鋭く、物も良く分る、將來聞いて参りますには、臺灣に於ける生蕃に對して日本の因まつて居るやうなことは決してない、非常に柔順な良い人種であります、一般に農業を専業として通貨は矢張り和蘭の金を使つて居りますけれども、田舎に入りますと殆ど金の必要がない、自分で食うだけの物を作つて、自分の所のないものは人の物と交換をする、着物を着るとか、鹽を求めるとかする場合は、海岸地方に出て参りまして商人から交換して居ります、アフリカ人の住んで居る北地方には支那人の商人、アラビヤ人の商人といふものを入ないことになつて居ります、元來昔時から住んで居りました土人だけが此邊に住んで居る譯であります。

セレベスの四人種

其次のトラジャール人種は、是はアフリカ人種の居ります西から此邊にかけて住んで居ります、此處は一番高い地方でありますから氣候が良い、私が此處に参りましたときは攝氏の十五度といふ温度で、毛布を二枚着て火を置きたい程に感じました、さういふ所でありますからトラジャール種は非常に體格は良い、強健であります、矢張りアフリカと同じやうに以前は首狩等をやつて原始的の性質を有つて居たのでありますが、事實は決して悪いものではない、柔順な良い人種であります、勞働の上に於て一般にアフリカ人より秀て、居ります、是は體格の然らしむるところでありませう、私の眼にはトラジャールの方が働きの良いやうに見えました。

それから次のマカツサ人種、是はマカツサ半島を中心に此附近に居ります人種で、是はセレベスでは最初に文明に接したところの人種で、人間が伶俐で中には

商賣の上手な者も居ります、體格等はアフリカ、トラジャールに幾分劣りましようが智力の點に於ては勝つて居ります。此マカツサ人は自尊心の強いところが特長であります。今でも和蘭政府の下に役人になつたり、兵隊になつたりすることを好まないといふことを聞いて居ります。それだけ伶俐な點があるやうであります。

それから其の次のブキス人、是は大體マカツサ人種と同じやうであります。吾々には一寸區別が分りませぬ。其本人に尋ねて見なければ分らない、幾分マカツサより體力が弱い位のものである。ブキスは主に漁業を事として居りまして、プラオと言つて居りますが、小さい舟に乗りまして、さうして海洋に出まして漁業を致して居ります。先程も申しましたやうに風がない穏かな地方でありますから、其小さな舟で遠方まで出て行く、是は今の政治が布かれます以前には能く海賊を業とし支那の船、其他の貿易船等を襲つたりしたやうな人間でありますから、性

質は何かといへば慄慄の方で海の事を何んとも思はない鋭い性質であります。併しそれかと言つて外國人に危害を及ぼすとか、土人同志の無法な危険といふやうなことは決してないのでございます。大體今申上げました此通りの人種でございます。

土人と宗教

序に此四つの人種に就きまして、彼等の奉じて居ります宗教を申上げますが、アツフル人は今申しましたやうに文明に接して居らない。それで自然天然に體得します宗教は、別に宗教といふ名を付けましたものでないのでありますが、迷信に囚はれて天體を崇拜したり、色々夫も地方地方に依て習慣が違ふやうで御座いますから一定に申上げる譯には行きませぬが、兎に角原始教とでも申しませうか、偉い者が死にますれば夫を神様に祭つたり、普通の者が死ねば神様に嫌はれたと云ふやうな迷信に囚はれて居るのであります、まづ原始教でございます。

其中で特に申上げて置かなければならぬのは、其アツフル人の原始教以外に何にも知らない頭腦を以て行つて和蘭の宣教師の方が入込みまして、約二十年程も前であります、土人と同じやうな風をして宣教を始めて以來、今其方は此地方に住んで居りますが、其方の盡された仕事の結果、大變今ではと耶蘇教を奉ずる者が多くなりまして、村一つ々と申上げても宣い程に、教會堂及學校を造りまして子供の教育をやると同時に、大人の宗教思想を導くといふことになりました。ドクタークルイドと申しますが、此人の偉大なる精神的貢献の結果、アツフル人は、前申すやうな本の原始的の宗教から救はれて、段々耶蘇教に導かれつゝあのであります。是も無理に勤めるのではなくして、唯だ人間の道、従つて神の道を説きながら自由に入りたいたいのを導いて行くのであります、極く温和なやり方であります。皆良く土人は宣教師に親んで參りまして、和蘭の宣教師は四五名居りますが、其の他ミナハサ人を學校の教師としてつれて行つて旁ら布教に力

めて居られますことは、近き將來に餘程精神の上に優良に導かれるだらうと思ひます。

それからトラジャヤの方の宗教も矢張りアクトールと同じもので甲乙はないのであります。アクトール程トラジャヤの方は今のところ耶蘇教は行きわたつて居りませぬけれども、矢張りそれに準じて布教されて居りまして、ポツ／＼耶蘇教に従ひつゝあるのでございます。

回教と基教

それからマカツサ人種の方は、是は以前まだ和蘭の事業が緒につく以前に、印度から來たマホメット教が爪哇を通じて入つて居りました。其結果マカツサの間はマホメット教を奉じて居ります。是は皆さん御承知の通りに、特に色々な日常生活の上に就て嚴格なこともありまして、殆ど爪哇一帯のマホメット教と同じやうに化せられて居ります。

それからブギズ人も海岸に居ります爲めに殆どマホメット教に入つて居りますけれども是もマホメット教許りでなく、耶蘇教の宣を受けて歸依して居る者も内には幾分あります。

それから先きに漏しましたが、此北東の突角をミナハサ州と申しまして、此處に居る人間をミナハサ人と申して居ります。ミナハサ人は特に是はセレベスだけでなく、蘭領印度全體の土人中で勝れた、頭腦を取つて居たそれで一番能く始めに文明を受け付けて、性質は非常に柔順であつた爲めに、和蘭政府の方から此土人だけは特に重く視られて、早くから教育をして譯で、此土人は外の土人より裕福に幸福に住つて居ります。彼等の宗教は全部耶蘇教を奉じて居ります。ミナハサの傳説には色々ありまして、吾々の元祖は日本から來た、北から來たに相違ない等と云ふ者もあり、又私が行く以前に、メナドといふ名から日本の港に近いし其他土地の名等に似通た名があるから、或はそんな風説が起り日本から來たので

はないかと思はれたものでありましたが、決して全然没交渉であるといふことは言へないにしても、日本人が此處へ来たといふことはないものであります。メナトの語調なども日本語に近いけれども、是は偶然なことで、決して日本語と同じではない。ミオハサ地方では言葉は四つに分れて居りまして、其の一地では竹などをタケといつて居ります。殆んどどこでも竹はペーブーであるにミナハサの一方にタケと言つて居るのもありますから、さういふ似通つた點から、又復研究して見ましたならば面白い點があるかも知れない。此土人は容貌も大變宜しく、男子も日本人に近い人もあります。現に私共の所に居ります若い者の中によく買物に行くの間違ひられて仕舞つて、日本人の家に行つて向ふから土語で言はれて面喰つて居るのもあります。今ミナハサの人で唯だ一人日本に居る人がありますが其人は日本人と同じやうであります。誰れでも日本人としか思はないといふ譯であります。そんな人間が此地方には住んで居ります。

教育制度

其次に教育を申し上げます。教育は蘭領印度を通じての教育制度でありますから、特にセレベスだけ違つて居るものではない、政府が定めました初等教育到る所の村々に學校を拵へて兒童を教育致して居ります。其小學校制度は二種類ありまして、第一種類と第二種類とになつて居る。第一種類の小學校の校長には和蘭人になつて居りまして、土語と馬來語と和蘭語とを教へる。第二種類は土人の教師で是は和蘭語を教へない、其外算術と博物の知識といふものは、繪を用ひまして極く簡単な教へ方でやつて居ります。入ります年齢は滿六歳からでさうして四ヶ年置くことになつて居ります。第一種類の學校はマカツサ、メナド及びゴロンメロンメロとにあるだけであります。それから政府立の小學校の無い外の各田舎の學校は宣教師の手になりました學校であります。矢張り其組織は政府立と同じやうになつて居ります。初め宣教師の手によつて教育されつゝある間に、人間も土地も

發達して來ると學校の制度が政府立に變更されて行くといふことになつて居ります。校舎や備品は村の寄り合ひで作りました、圖書といふやうなものは政府から出て居ります。政府立になりますと立派な校舎も出來て、設備も整つて居りますが、第二級の地方の田舎に行きますと殆ど先生が足りませぬので、一校を一人の教員が受持つて第一年度に一年と二年、二年度に二年生と四年生を卒へて、三年度になつて卒業生を出して新入生を募集するといふ風にしてやつて居ります。日曜日には學校に生徒の親達も集めて祈をするといふ具合に行届いた教育のやり方でありませぬ。其外には中等教育と致しましてメナドとマカツサに學校があります。是は普通の學校でなくして、昔からの酋長現に役員になつて居る者の子供といふものを集めまして、是は和蘭話を特に教授して居ります。是は六年級になつて居ります。其外に師範學校としてメナドにあります。是は教師の資格を得るところであります。メナドの學校を出ましたものは地方に行つて小學校の教員になる資

格が出る譯であります。其他にメナドの方には極く簡単な工業學校がありました。机を始め車等を作ることを教へて居るのがあります。教育機關としては其の位の程度でありまして、それを出しましてはパタピヤに行つて高等學校に入るといふこととなりますれば愈々教育の方は普及されるといふ譯であります。

原始的農業

それから農業に就て申し上げますと、先程も御話申上げました通り、セレベス島は殆ど吾々から考へますと、想像の付かぬ程原始的でありますから、早い話が神武天皇時代に、ヒョッコリ生れたかのやうに考へるのが早道でありまして、殆ど何んにも分らない所に、神様が出來て來たと同じやうだと申しませうか、吾々が行つて見ますと總べて思想が幼稚で御話にならない。一般は農業を業として働いて居りますが、作物は普通米、椰子、蜀黍といふものが主でありまして、米は一般に人が住んで居るところは、何處でも陸稻を作つて居ります。それから平原地

方では、水田に米を作つて居るものもあります。米田の方は何分にも、昔からの習慣と想像が單純でありますから、爪哇の方から教育を受けたものが、段々來て教へて呉れる譯でありますから、一般に田の出來る場所があるに拘はらず、陸稻を作つて居るのであります。其中で米田から御話申上げますと、土地が年中氣温の變化がないから、一年に二作出來る譯であります。ところが土人の習慣として、二作、作ると地味が衰へる爲めに收穫が減る。だから二作は勞力に價するだけの收穫を得る譯に可かぬといふので、一作に致して居ります。尤も此頃米價が騰貴した關係から、地方に依つては二作をやつて居りますが、兎に角肥料の應用といふことを知らないから二作をやると地味を悪くするので、何うせ二作をやりましたも、澤山得られない。併し地方の關係上、追々進歩するであらうと思ひます。それでそれを耕すのに、鋤鍬等の道具の整つて居りますのはマカッサ地方、メナ地方の海岸の平原地方に過ぎないのであります。さういふ地方は日本のや

うに、牛に曳かせまして、さうして米田を整理して、苗代を作りまして手で植付ける、マカッサ半島の如きは、水利の關係が良く行届いて居りまして此地方からは大分澤山の米が穫れて居ります。其植付けました後には、草をば引くといふやうなことは殆どやどやりやませぬ。熟するのを待つて、其儘熟しました後に、穂先だけを收穫致しまして、根から刈取らないで、穂先をば摘み取つて行きます。蒔きますのは大抵一二三月頃で、天水を利用して蒔きまして、收穫は大抵八月頃になつて居ります。六ヶ月位蒔いてから收穫までにかゝるやうであります。日本の稻より大分長くかゝります。其穂を摘み取りました本の葉は、米田に残しまして時を経るに従つて腐りまして、原肥として地味を恢復する譯であります。地方に依りましてはそれを灰にして置く所もあります。それから收穫率は區々でありまして、未だ殆ど何の位といつて、統計的に一反當り何の位といふ譯には行きませぬので、地方に依りまして非常に違ひます。上手下手に由つても違ひます。一

般に一バウから(我七反歩)二十ピツクルから、良い所で七十ピツクル位穫れる、之を日本のに換算して見ますと、日本の上田で反三石穫れる場所を標準とすれば一バウに就て百ピツクル以上二百ピツクルにも登らねばならぬ。日本人が行つてやれば、現在の三倍から四倍の米を穫らなければならぬ譯であります。

それから陸稻の方は是は一層不正確で、成績の標準は分りませぬ最切土人が森林を開きまして、表面を整理したところで陸稻の種子を蒔く、それは矢張り一二月の雨の期節を測りまして、さうしてペラで蒔付けまして收穫まで其儘にして居る。矢張り五六ヶ月かゝりまして、七八月頃に收穫して居ります。此方の收穫率は未だ私は調べて居りませぬ。又實際土人に質ねて見ましても分りませぬ。目分量で計る以外には、調べて見やうはないのでありますから、此方の統計は困難であります。

蜀玉黍と椰子

それから蜀玉黍は、米を一度穫りました翌年には、蜀玉黍を蒔き、さうして收

穫して居ります。陸稻を一度穫りました後に蜀玉黍を一度植付けると、一年乃至二年かゝれば、其後は地方を恢復するまで、放棄して仕舞ふといふのが習慣であります。町に近い所ではバナナ、唐芥子、野菜を作つて二年か三年使つて居りますが、大抵は蜀玉黍を作れば、更に新たに開墾するといふ具合に、轉々して廻つて居ります。さういふ場合には丁度五年目なりますと、最初にやつた場所を、もう一度木が生えて恢復するから、戻つて来て復たやるといふ具合に、廻つて耕作を致して居ります。

次で椰子であります。椰子は海岸地方の到る處に人が住んで居れば、必ず椰子の木を見ない所はないといふ位に、行はれて居ります。特にメナド地方のサングル列島の方、それからトミニー灣の中の、各島を始めとして、此邊が一番椰子が盛んで、南の方のブートン、それからマカッサ此邊が次で盛んに植付けられて居ります。椰子は皆さん御承知の通り、種子の中の油質をば、コブラと稱して

居りますが、此コブラにして輸出をして居ります。年々の産額は、確然記憶致しませぬが、兎に角月々何千噸といふ、コブラが出るのであります。新嘉坡を基點として船が参りますのは、一ヶ月二回宛三千噸位の船であります。大抵コブラを満載して持つて行くのであります。其割合から見ましても、數千噸は出る譯であります。椰子の栽培方法、さういふことは茲に申上げませぬ、特に御質問があれば、また後で御質問に應ずることに致して置きませう。

特有物産

次で特有物産につきまして落花生、是は土人が一般に菜にして食しますので作つて居ります。其外栽培をして居りますのは珈琲、是は爪哇で強制労働法を布きました時代からの遺物でございます。其時分は開けて居りましたマカッサの方と、メナド地方是が主になつて居ります。珈琲はアラビカ種とロブスタ種の二つでありまして、ロブスタ種は東京のカフェーパウリスターなどの、伯刺西爾珈琲の種

類であります。アラビカ種の珈琲は大變良いのであります。是は山地の高い地方に、二千尺乃至三千尺上つた方が、大變地味も良く、氣候も適して良い物が穫れるのであります。

それから其外に肉荳蔻、土語でバラと言つて居りますが、香料であります。是はモロッカス群島の香料貿易盛んであつた時代の影響を受けて、メナド方面に植ゑ付けてあるのであります。モロッカス群島程盛んではないが、幾分出ます。

それからタビオカといふ芋がありますが、是は土人は菜に使つて居ります。澱粉の取れる芋であります。さうして馬尼刺に接近して居るペオ島には、殆ど野生に近い状態で、マニラ麻が生えて居ります。

それから丁子があります。是はモロッカス群島の方に澤山出ますので、本島では恰度肉荳蔻と同じ位の産額であります。

それからセルベスの方で護謨をやつて見た人がありますが、バラ護謨であります。

居るかといへば、和蘭人の商人支那人の商人が其場所をば選びまして、政府の許可を得まして、其處に人夫を連れて参りまして譜負はして切り出さして、そうして船に積出して爪哇地方に持出すやうになつて居ります。

有望なる鐵鑛

それから鑛業であります。鑛産物としては先づ金であります。セレベスは金が有名でありまして、北半島にバレレー、或はトートク、ゴラバイ等で其外二ヶ所許り金山を開いて株式會社組織で金鑛を採掘して居るのがあります。是は詳しいことは唯今記憶して居りませぬが、各々其會社は良い配當をして居るのであります。缺損をしないで居るやうであります。時々産額が少ないの會社が困ることもあるやうであります。兎に角可なり成績を擧げて居るやうであります。是は中部セレベスの方にチヨイがあるやうであります。現に私共行きまされた所では金の表はれて居るも見ましたし、土人の採つて居るのもありました。

其次は鐵であります。鐵鑛は唯今では未だ掘つて居りませぬが、此マソレーの北東にかけまして、此邊に非常な鐵鑛があるのであります。是は昨年か一昨年から新聞にも出まして衆目を惹いたものであります。是は産量二噸億を超へるといふ大鐵鑛であります。政府事業として之を開拓する筈になつて居るのであります。其鐵の産出する地方にニッケルが出ます、ニッケルも非常に含有量が多い質の良いものであるさうであります。

其外には石炭であるとか、石油といふやうなものもありますが、未だ是といふ場所から出て居りませぬのでございます。私は見て歩きます中に石油の出る居るところもありましたので、それ等から推して石炭が此地方にあるといふことを思ひましたが、此邊は地質學上からいふて先づ良い石炭は無いさうであります。

水産と商業

其次は水産業であります。水産業はブギスと申しました土人が一般に生計を營

みます爲めにやつて居りますので、極く簡単な網釣道具をもちまして、小舟に乗つて出るのでありますから幼稚なものであります。併し魚群は多くて種類も澤山あるやうであります。先年臺灣から檜谷技師がメナドの方に漁業調査に來られました。其時分の御話しに大變有望なやうでございます。相當の資本を有つてかゝれば必ず利益があるものであるといふことを聞きました。鯉の如きは船が繋るやうな所に能く浮き立つて出て來ることは度々見受けれます。日本人でトートクといふ所でやつて居る者があります。魚類を金山に納める爲めにやつて居るのであります。土人を二三十人使つてやつて居るといふ譯でありますから、大規模にすれば何ういふ計算になるか分りませぬが、其人だけは困まらない生活をして居ります。

其次には商業のことを申し上げます。商業は殆ど原始的の土地であるから天産物の外には是れといふ産物はないのでありますから、椰子、藤、木材といふものが

主であつて、従つて商業の方も此處の天産物を持つて行くだけで、輸入します日用品、着物、反物類等も澤山は入らない譯であります。さういふ製品は總て輸入に俟つて、原産物と交へて居るのであります。主に和蘭人支那人の手に支配されて居ります。特に今度の歐羅巴戦争以前に裏南洋諸島が獨逸領であつた時代に、獨逸商人が勢力を有つて居つたのであります。今でも勢力が残つて居ります。其の下で支那人アラビヤ人の手に依つて土人との直接取引はやつて居ります。

工業と金融

それから今度は工業、是は未だ見るべきものはありませぬのでございます。製油工場があるだけで、極く小さい製氷製材とかいふものだけであります。併し將來のことを申しますと、工業はセレベスが開けて行くと同時に盛んになるものであらうと思ふ。さういふ時代に動力としては何ういふものがあるかといふに、石炭に乏しい代りに石油が對岸ボルネオから出ます。従て石油は安く買へます。之

が工業の動力としては充分なものであらうと思ひます。もう一つは斯ういふ山地であります爲めに、川が急峻な傾斜をなして居つて、加ふるに充分の雨量を以て居ります爲めに、水力の賜に富んで居るといふことが言へる。此中央にボソ湖といふ大きな湖水があります。南北三十基東西十五基位のものでありますが、是から排出します水は湖水の水面が海拔五百米突で海岸迄に、六十基米突許り流れて居ります。其間は川幅百五十米突許りで、深さ二米突許りありまして、此處で何萬馬力といふ水力が得られると思ひます。其外にも此處に湖水があります。此處には可なりの瀧があります。其外到る處に湖水や川がありますから、他日工業が發達する場合には動力として水力を利用する便宜が多くあります。

次は金融機關であります。是はマカツサに蘭領東印度の國庫になつて居るジャバ銀行支店があります。其外ハンテルスバンクも支店を有つて居ります。其他にも二三ありますが、此二つが主なものであります。日本との取引關係は臺灣銀行、

正金銀行、或は三菱銀行等でやつて居ります。唯だ内部に行きますと、地方に依つては其地方の大なき支那人和蘭人の商賣人の手を経て互に爲替の交換をして居るといふ譯であります。

在留邦人は

さうして最後に日本人が參つて居ります状態から、又將來日人が此處に參りまして、何ういふことが出来るかといふことに就て私の意見を申上げたいと思ひます。唯今まで參つて居ります日本人は商賣人で、是も二三年前丁度秋がメナドに參りました以前は極く少數でありました。マカツサのことは詳しく存じませぬが、メナドの方に私の以前には僅かに十人足らずでありました。一番古い人は既に二十年位も居りました相ですが、それも本は微々たる資本の雜貨を商つて居つたに過ぎないのであります。私と前後して南洋貿易會社を始め多くの會社が殖えまして今、ではメナド日本人會で登記されて居る者が百五十人許りあります。全

島では三百人乃至四百人位は居りませうと思ひます。主に商人でありまして日本の雜貨を商つてさうして彼の地の物産を日本に持つて来る。或は支那人和蘭人に引繼ぐといふやうにして居ります。私共のやうに農業を目的にしてやつて居るものは南洋では私方と、此地方に一人とマカツサの方でマクリーの方に一人でございます。それからマセネといふ所に土地を借りた人があります。さういふ風には是からやらうといふ程度であります。今まで私共は蘭領東印度の方に参ります以前聞いて居りましたのは、日本人が行つて事業は仕憎いといふやうな風評を聞いて居つたこともありましたが、自分が實際行つて種々役人の方或は商賣人、和蘭人始め獨逸人、又は土人一般に交際をして見、又自分の仕事の上に色々御厄介になつて居ります経験の結果、今まで耳にして居つたことは全く事寛は反對であつて、私自身では仕事のやり良い、又行届いて居る場所であるといふことを信じて居ります。例に就て申せば幾らもあります。併し之と反對の例はありませぬ。是

は古い時分に行つた日本人には随分亂暴者があつた爲めに、自分から求めて悪い事をして、詰り悪い酬ひを受けてそれを言ひ觸らしたものに過ぎないので、全く自分の辯護の爲めに彼の地を悪く言つたに過ぎないのでありまして、誠に遺憾に堪へない譯であります。

永住權問題

私共バダビヤを経由しました時に松本領事に會つて伺ひましたのは、彼の地へ参つて仕事をするのに永住權を貰ふのに大層時日が、かゝるといふであります。何んなものでせうと言つて聞きましたところが、そんな困難なものでない。當り前に規則があつてさう時間がかゝるものでないといふことであります。それで彼の地に着いて永住權の願書を出しましたところが、唯だ三週間で下りました。それで私が豫ねて聞いて居りました、二年以上居るか或は少なくとも六ヶ月以上居らなければ貰へないといふやうなことは、直ぐ裏切られた譯であります。それ

で友達にも勧めましたところが皆さういふ具合に永住権を得ました。尤も私の伴
 れて行つた者の中には貰へなかつたものがあります。是は其地方の役人の眼に映
 る、其人が永住権を受けるやうに願書を出しても生活して往けるか何うかといふ
 ことを見るので、是は難しいと思はれると仕方がない。幾ら〜商業をして居つ
 て税を納める人であるといふやうなものであると難しくない。私共は収入の途と
 いふものは分らない。それで會社の給料といふものを書き出したのでありますが、
 兎に角一ヶ月五十ギルダー乃至七十五ギルダー以上を生活の標準に見て居るやう
 であります。是は決して吾々の聞いて居たやうに經營が難しい。永久権を得られ
 ないといふやうなものではありません。私共参りまして願書の書方も分らない、
 其筋に行きまして伺ひましたところが役人が自分で書いて呉れて署名すれば良い
 やうにして呉れるといふ譯であります。又私が土地の永借をしやうと思つて出願
 したことがあります。それで然るべき土地を調べたいと思ふが何の邊に得られや

うかといふことを相談に行きましたところが、彼の邊の土地が空いて居るからと
 いふので二三ヶ所調べて見ました結果、願書を出しましたが、其時分にも手續全
 部殆ど手を取つて拵へ上げて貰つた譯であります。私は暫時英領のマレー半島に
 行つて居りましたが、却て英領印度の方が行届かないで日本の役所式であつた。
 日本の政治の下で斯ういふ場合を考へると繁文褥禮を感じることが餘程あるので
 あります。私共海外旅行券を貰いたいといふ時に、まづチョットやソットで旅
 行券を貰へないといふ譯であります。眞面目に本當に仕事に行く者は歓迎して居
 るといふとを申し上げます。是は執拗に申せば幾らも例がありますが、詰り土人を
 脅かすやうな程度でやつて来て貰ふのだけは餘り好ましくないが、歐羅巴人が蘭
 領東印度で仕事をやつて居るやうにすれば、何にも人に由て差別をする必要があ
 るか、日本人は土人に對して歐羅巴人より意志の疎通が容易な譯である。さうい
 ふ人が来るのに何故不便な扱をする必要があるかといふ反問を受ける位でありま

す。此點は御心配ないので、御安心なさるやうに御勧めしたいと思つて居ります。

蘭本國の方針

それで和蘭の方の意嚮がさうであるが土人の意嚮はどうかといへば、まづ私が一番多くの人に接して居るのは此邊の人であります。能く土人にも會つて話を聞いて見ますと、皆歓迎して呉れます。それは其土地の開発に盡くし、今まで自分等の知らない農業の知識を教へて呉れて、一石の收穫の所から二石穫ることを教へて呉れる人に反對するものでないといふことを知つて居りますから、決して日本人が入つて行くことに就て、自分等の土地が減るから困るといふやうなことを言つて居る人は一人も居らないので、土地の開発に來て呉れるのだから結構だといふ話を聞かされて居ります。

それで愈よ行くには何ういふ風にして行けば宜いか、先づスマトラ、爪哇などは圏外でありますから、セレベス島に就て申しますれば、セレベスは日本との關

係は地理上、今までは新嘉坡を經由して廻つて來るといふことになつて居りますが、一番メナドへ行くのが近いのであつて、横濱から一時間十哩位走る船であります。八日間位で行けます。其位の近い所であります。是が今ではグルツト廻つて行きますから大變遠いやうに思ふのでありますが、之を只今申すやうに郵船會社の船あたりに、此處に裏口を開いて貰へば非常に便利であります。和蘭領の東印度に入りますのに一番近いのはメナトであるといふので、私の主人が此處に私を送るやうになりました原因でもありますが、さういふ場所でありますから日本人の入り易い地位にあるのであります。それで此方面に澤山の日本人が行きましたならば便利も開けて來ると思ふのであります。

發展方法如何

それでは何をすれば宜いかと云ふと先程も申し上げましたやうに、今までの日本人は商業に従事して居りますが、是は悪いといふ譯ではないが、先づ彼地に行き

まして、一番着目しなければ成ぬのは農業であらうと思ひます。それはセレベス全島總て原始時代に近いやうな有様でありますから、在來の土人は農業上の知識が殆どないので、習慣を有つて居るといふだけでありますから土地も幾らもある。面積が相當にあつて、一平方基米突に十人乃至二十人といふやうな稀薄な人口であるだけでありますから、土地が非常に廣くて、地形は山が接して居ります爲めに氣候の良い所に行かれる。涼しい所を得られる、土人さへ生計を立て、居るのであるから、吾々は二倍三倍の収益を得ることが出来ると思ひます。殊に南洋は極く良く植物の繁茂する場所であつて、日本で冬の間待たなければならぬのに、一年中通じて農業が出来るといふ場所でもありますから、農業に依つて開拓して行くやうにしなければならぬといふことが、一番尤もなことであつて、吾々の發展の方法であらうと思ひます。まづ農業が開けて今の爪哇のやうにセレベスが開けて仕舞へば、従つて工業商業も續いて盛んになるといふことになると思ふ。それで農

業でなければならぬとしたならば何が良いかといふと、椰子が土人が慣れて居りますからまづ椰子を看板にして行くが良い。それから米であります。是は日本人は米を作ることが慣れて居りますから、土人に勝れた知識を以て行つて米を作るといふことは非常な利益でありませうと思ひます。彼處では良い成績を擧げることが出来ると思ふ。それから棉であります。棉は今までは何うかといへば栽培をして居る場所もありませぬが、時々土人の作つたのを見ると大變良いやうであります。大變有望のやうに思ひます、其他サイザルヘンブ、或は馬尼刺ヘンブ、或はラン等は大變良く出來ます。其外一般の野菜、極く小さな一個人經營の上からいへば、馬鈴薯等は勿論地方需要を充すだけのことだけでも足らなくて待つて居る譯でありますから、有望であります。

凡ての點が有望

それからマカツサ半島の平原に就きまして、特に私の考へましたことは、將來

是は甘藷園になるだらうと思ふ。今では爪哇は非常な甘藷の産額を有つて居るが、何れも地所に行詰つて居ります。甘藷栽培はセルベスでは未だ實現されて居りませぬが、此地味から、雨量等から考へますと、是は私は専門でありませぬから思切つたことは申上げませぬけれども、必ず良いのではあるまいかと思ひます。

前申上げました通りに衛生状態からも、地形氣候の關係からも宜しいのでありますし、土人の氣受も悪くないのであつて、總ての點に於て吾々が出掛けて行きますには、便利であつて將來有望な場所でありますから、農業を目的として御出でになるといふことを御勧めしたい。是が私の希望であります。

私共の方の事業が種々進行致しますれば多少御参考になるやうなことも申上げられるのでありますが、未だホンの取かゝつた許りでありますから何等御参考になるやうなことも申上げませぬで、誠に杜撰な事を申上げまして恐入ります。(完)

ニューギニア事情

廣袤地勢

南洋産業會
社取締役

日下部 半太郎

私は只今御紹介を頂きました日下部で御座います。私は今から約十年程以前より南洋各方面の仕事に従事して居りますが、従來比較的一般に紹介せられて居らない最も交通の不便なるニューギニアの状態に就て大略お話し致したいと思ひます。ニューギニアは御承知の通り、之を大別して蘭領と英領舊獨領と致しまして、これは濠洲の手に落ちまして只今は軍事占領中で、近い中に委任統治の問題が決する筈であります。兎に角三つに分れて居ります。茲には先づ全體に通じてお話しして後に、大略區別してお話したいと思ひます。

申す迄もなく御承知のことと存じますが、順序としてニューギニアの位置面積の大略を申し上げます。ニューギニアの本島は北の端は赤道に隣し、約二十哩から始まり、南緯十度餘り、西は經度百三十一度から、東になれば百五十度位に止まつて居ります。其の東西の長さは約千三百哩、幅は不規則で、中央の廣い所で三百七八十哩あります。南東北西に段々延いて、次第に細くなつて居ります。面積は附屬の諸島を合はせ、約三十一萬二千方哩、乃ち日本全領土より約五萬方里大きいのですが、人口は僅々六十萬人と推定されて居ります。由來本島は何分にも蕃界が多いから、測量とか探險とかは頗る不完全で、殆ど今日迄行はれて居りません。現に和蘭の參謀本部の地圖も見ましたが、名前からスケッチ地圖として、唯海岸線に對する位で、内地の方の山の高さも、平野の位置も疑問の印であります。英領も、舊獨領ニューギニアの方も、茲にある極最近濠洲の測量部で作つたものがありますが、其の根本も、海圖から逆に引き直はしたので、矢張海岸線丈

で中は記してないのであります。

パプア種族

さう云ふ次第で、本島の地形状態は申上げることが困難であります。極大體を申し上げますと、本島の蘭領の地勢は、中央には雪山シミール山脈が東西に走つて、此等は二千五百米突乃至五百米突の標高があります。常に雪を戴いて居るのであります。西北に彎曲して海岸線の屈折が多く、港灣に富んで、沿岸は比較的拓かれて居ります。東は英領ニューギニアに屬して居りますが、南東の港灣は、澤山の山脈がありまして、其の傾斜面より測量されて居ります。南部はオウストラヤの北に面する平面に、沖積土の平原があります。其の間にフライ河があります。土地は却々良い。本島の北側は蘭領舊獨領共に、中々廣い平野があつて、地味も肥えて居るやうに思ひますが、其の間にオウサス河、ルモ河がありまして、充分なる灌溉の便利のあるやうに思ひます。それで茲に住んで居ります土人は

どう云ふ人間かと云ふと、廣い島のことですから、地方に依りましては、多少の差異はありますが、大體ニューギニア人種、即ちバプア種族と稱するもので、詳しく區別すると、蘭領印度の北岸に屬するもの、及び西北部のものが、所謂バプア人で、舊獨領の分は、今度日本の領土になつた、マアシャル、カロリン群島に住する、カナカ系統の人種で、純バプア人に比しては素質が宜しいので、私の觀る所では、バプアに近いやうに思ひますが、私共の使つて居る土人は、多くは、之れを使つて居ります。英領ニューギニアの一部はカヤヤと稱するものがあります。これは極程度が低いものですが、多少違つて居る濠洲土人で、ピンガイルの混血であらうと思ひます。純バプアよりも、一層瘴惡で、更に野蠻であります。何れにしてもバプア系統の土人は、人類としては最も劣等な亦最も下等なものであらうかと思ひます。

青鬼と赤鬼

私は不幸にして亞弗利加や、南米の土人を親しく見ませんが、是迄の南洋の土人に比しては、容貌、言語、知識と謂ひ、是れ以上劣等なるものはないかと思ひます。極端に言ふと、殆ど猿と人間との間の動物で、然かも猿に近いものではないかと思ひます。私は素人で眞偽は知りませんが、或る和蘭人が、白人と猿の血液を採つて、反應試験をした所が、寧ろ猿に近い反應を呈したと云ふことであります。私は蘭領に十數年居られた。和蘭の紳士と一緒に、船に乗りましたが、嘗て蠻人の小供を二人許り本國に送つて、四五年も教育してから後に、連れて來た所が、又直ぐに元の姿になつたと云ふことで、其の人は要するに他年の經驗で、バプア人とカヤヤ人とは、到底一人前にすることは出來ないものと神に誓つて、信じて居ると謂つた次第であります。土人の容貌、生活の状態風俗等は、地方により多少違いますが、詳細は寫真か何か、南洋の實物でないと能くお解りになりませんが、恰度私は旅行中なので何等の材料もありません。従つて甚だ不徹底で

ありますが、大體のお話を口で申します。

顔の色は申す迄もなく眞黒な銅色で、髪の毛は縮んで、大きな頭で或るものはそれに石灰を擦り附けると、半分白髪をやうになつて、然かもちりちり寄つて、房が下がつて、或るものは白石灰、赤、青の粉を着けて、赤い頭や、白い頭、黄い頭をして居ります。更に青や、赤や、白い石灰の塗料を顔や身體中に盛んに塗ります。恰度戰爭中に、潜水艇や、軍艦が灰色に裝飾すると、同じやうな恰好であります。一般にバブアでも、異様の裝飾をして、普通はこれに耳孔を明けて、巻煙草のやうなものを挿して、或るものは豚の牙や、犬の牙を豎て、向けにしてゐるものもあります。中には眞鍮の輪を七本も、八本も掛けて居ります。甚だしきは(手眞似)此の位の鉛を着けて居ります。これは一般にさうではありませんが――男には鬚の尖きに、雞の羽根を着けて居ります。さうかと云ふと、半分鬚を剃つて、半分残して居るものもあります。何んでもこれは、勇者の印しだと云ふことで

御座います。さう云ふ妙なものが、赤や、青や、色々な塗料を塗つて、男女とも變なもので、恰度昔の青鬼や、赤鬼のやうなものであります。恰度私は寫眞を持つて居りませんが、乳から上を映した寫眞があります。これは何れが男女であるか、判別が御困難であらうと思ひます。

凡てが食料

夫から更に是れ以上、彼等の風俗習慣をお話すると、何分未開の裸人間の話で勢ひ野卑な話が加は、るやうになりますから省略する事とし、そこは悪しからず思召を願ひます。彼等の服装は、汽船の這入る港とか、或は宣教師の居る所は、多少腰を掩ふて居りますが、其他の場所は殆ど、全部裸體であります。陰莖は紐で縛つて、臍の裏に吊り上げて置きます。夫から瓢箪を嵌めたのも、竹の筒に嵌めたのもあります。斯う云ふ風で、其他にも色々なものがあります。女は日本の禪のやうに縛つたものもありますが、所によりては全然裸體の所もあります。男

女共に身體に傷をつけて、一種——の跡みとは少こし違つた。黒く入れてありませんが、傷が盛り上つて居ります。夫から結婚の時には、夫婦になりませる晩に嫁さんが来ると、先づ親戚其他のものに身體を任せて後に、新夫に見へると云ふことであります。これは領事館の報告で——食物は何んでも良し、蕃犬とか或はセイゴとか、甘藷、鼠、豚、鹿、蛇でも何んでも喰ひます。茲に甚だ不思議のは彼等は決して生物を食ひません。さうかと謂つて炊くのではない、腐らせるので、能く腐つて、蛆がわく時分になると食べるので、是れはどう云ふものですか、甚だ不思議に思つて居ります。人が死ぬと所に依つて違ひますが、バプア人全體は決して死ぬものでない、悪魔がつくか、人が祈り殺されるかと云ふやうな考を以て居るので、人が死ぬと死人を外に、五日も六日も置いて、腐つて蛆がわくやうになると、親族朋友が集つて、死人の汁を吸ふて居る。其の死人の味に依つて果して何に依つて死んだかと云ふ、其の原因を判断する。夫から海を渡つて、旅に

行くときには、丸木船を使つて参ります。ニューギニヤには、極幅の狭まい、長さが二間位のもので、恰度浮船位で、波が這入ると直ぐに沈没します。これは沈没しても、決して差支ないので、沈むと同時に泳いで、片方で波を動かすと、水が飛出します。復沈むと又浮す、何度やつても差支ない、斯の如くして海上生活を續けて居ります。

食人種族

兎に角カヤ〜と謂ひ、バプアと謂ひ、人の首を生蕃式に捕ることは固より、人肉も喰ひます。殊にカヤ〜人が、首を打ちつけて、貯藏して居るさうですが、眞に人の肉が喰ひたいから喰ふのでもなさうです。オウスタラリヤと云ふ所にリンガヤと云ふ人種がありますが、是等の人種はどうかすると、喰ひたいのではないかと思ひますが、其他の連中は何か怨があつて喰ふか、何か怨があつて人を殺すのだと申して居ります。然かし人肉を食ふと云ふことは事實で、私の經營

て居る椰子園の、クライスと云ふ土人は、寄つてたかつて人肉を汁にして喰つたと云ふことで御座います。彼等の使う言語は、ナコール語とか、何んとかで、何れの語でも、各地皆異つて居る、到底一般に通ずる言語を練習することは出来ないので蘭領に於ては、馬來語、英語、獨領では所謂一種の英語を使つて居ります。是れはずつと以前に、獨領ニューギニヤが開發されるときに、支那の人間を入れたことであります。實際から例の廣東や、何かの變な英語を覺へて、今日迄使つて居るさうです。獨逸政府も此の點に於ては、随分熱心にやりましたが一向成績が舉りません。此の英語も、一寸聴くと英語のやうにも覺へません。假りに一例を舉げると、銀行のことを、ハウスマニト役所のこととはハウスペタスと申します。何んにしても二三百語の、簡短の言葉で御座いますから、思ふやうにうまく往く譯はありません。

氣候に關して申しますると、此の島は殆ど赤道下のことで、年中温度の高いこ

とは勿論であります、能く南洋地方を御旅行なされた人は、御存じの通り、朝夕は涼しい。先づ當地の暑中が、年中續くと思へば充分です。ニューギニヤは大體に於て、西北の風が、毎年十二月から三月に掛けて吹きます。それに盛んに雨が伴ひます。四月から十一月は乾燥期で、餘り雨はありません。當地方は無風帯で、日本に見るやうな、暴風は絶対にありません。氣候に關聯しましては、何分熱帯のことで、未開の土地で、吾々の最も心配するのは、病氣ですが、これはマラリヤ熱、乃至黒水熱、脚氣アミーバ赤痢、是等の病氣は何れの熱帯の、未開地でもあることで、必ずしもニューギニヤには限りません。且つ土地が段々開發されて行けば、斯う云ふ病氣は減るので、吾々は敢へてこれには驚くことはなからうと思ひます。私の居ります舊獨領のニューギニヤでも、元は却々マラリヤや、其他の病氣が多かつたので、夫々衛生設備を講じて、假りに蚊の撲滅に就て官吏を設けて、毎日視て歩いて、到る所の水溜や、不潔な所があれば、其の中に石油

を抛り込む。若しくは鍼力の空罐に、ポーフリの一匹でもあれば、三十圓の罰金を取られる。其の結果蚊が一匹も居りまん。従つてマラリヤも殆どなくなりました。此所三四年は更に黒水熱は、誰れも罹つて居りません。赤痢は以前もありましたが、井戸の水を禁じてから良いやうです。脚氣も食物に注意すると、恐れるに足りないやうです。病氣に就ては想像する程のこともないやうであります。ニューギニヤ本土の方は、何分にも大きな島で、殊に未開地のことで衛生の設備はありませんから、先づ相當の病氣はあるものと、覺悟しなければなりません。

蘭、英、獨

夫から歐羅巴人が、ニューギニヤに渡來したのは、何時頃か判りませんが兎に角十六世紀の始めには、既に西班牙人や、和蘭人が参りましたが、當時は頗る野蠻で、何等の設備もせず打捨て、置きました。一千八百二十八年に、始めて和蘭が西部に對して、バスト、メルプスウドを占領致しました。進んで一千七百二十

四年に、英國が東部ニューギニヤの領有を宣言しました。續いて獨逸が自分の領土として有しました。其後三國の間に、國境に就て協定が起りまして、遂に今日の國境の劃定を見ました。現在の三國の國境はどうかと申しますと、(圖を掛く)此線は百四十一度の線で茲にフライ河と云ふ河があります。此方を和蘭、此方を英領、獨領の三つに分けました。此英領の方は、此處の先きにウワードハンと云ふ所がありました。此處から百四十四度の子午線と、八度の線と東徑百四十一度と南緯の五度の線此三つを繋ぎ合せたものが英領で、夫から北が獨領であります。英領ニューギニアの方を申しますと、是からこつちの分と、群島を併はせて面積が九萬五千有方哩、人口約九萬で、一千八百八十四年英國から、直轄の殖民地として、總督を置いて、副總督並に民政部を群島に置きました。西部、中部、南部、東南部に分けて、各區に大總統官を置いて、其の下に土人の巡視を置いて、防備をして居ります。此の土地はオウスタリヤが、殊に東洋人の移住を好みませ

ん。獨領の如きも、蘭領に比すると、殆ど較べものになりません。是等の土地は、將來勤勉なる勞働者を輸入しなければ到底充分なる開發は出来ません。従つて交通も甚だ不便で、只今では濠洲のシドニイから、獨領ニューギニヤに行くには、月一回の船が寄港します、其他不定期船の船を一回送りますきりで御座います。

極樂島が中心

蘭領ニューギニヤは、本土の百四十一度から西の方で、之れに附屬する小さい島を含んで居ります。面積が十五萬一千七百八十九平方哩、人口二十萬人、此の外にスマトラ、ボルネオ、セレベスとか、斯う云ふ所が澤山ありますから、野蠻な所迄は手が廻りません。寧ろ中止の形ちで、其の代りに外國人の移住を、盛んに歓迎して居るやうです。海上の交通は頗る都合が良いので、和蘭政府の補助金を受けて居る會社があります。それが新嘉坡を起點として、爪哇を経てセレベス、マカツサ、アンボイを経て、イロイロ、モロツカス群島の諸島を経て、ブラウカ

スに參る所で、更に東して獨領の間に、カンブハツ灣迄出ます。これは三千噸級か四千噸級の船で、これは英領も、舊獨領ニューギニヤに及ばぬのであります。蘭領ニューギニヤの行政區劃は、北部と、西部と、南部の三つに岐れて居ります。北部には理事が居ります。南にはサンドンと云ふ副理事官が居りますが、西部はカルマデの管轄下で御座います。茲に最も有名なるコントラルと云ふ官吏が二百人位の兵隊を連れて、測量の傍ら、皆極樂島の商賣をして居ります。夫から更に東の島では、色々の産物が出て、チャムとか、コブラとか、高瀬貝とか、ワニスの原料に使ひます。多くの産物は、島の方から積出します。獨逸領の境になると、小さな島があつて、蘭領ニューギニヤの東の端であります。色々の産物はありますが、本來は極樂島丈であります。蘭領ニューギニヤの南は、英領を去ること僅かに五十哩の頭に、モローグと云ふ所があります。そこには一人の副理事官が居つて、土人兵或は、和蘭兵、或は警備艦を置いて、此の邊の警備なり、

測量に従事して居ります。そこには支那人が、百四五十人乃至二百人許り居ります。最近に至り、椰子を栽培することをやつて居ります。要するに蘭領ニューギニアの交通、商賣は、極樂島を中心として始まつたもので、今迄にも多少栽培もありますが、これは將來年數を要すること、思ひます。

キヤブテン・小峰

次は獨領ニューギニアですが、英國が占領して宣言を發すると同國に、獨逸が引續いて自分の領土を宣言して、其の當時にはニューギニア・コンパニイと云ふ、私設會社がありました。其の會社から三四千人の人足伴れて、煙草の栽培を始めましたが、當時設備が悪く熱病が流行つて、多數の支那人が死にました。只今は、土人の人足を用ひて椰子の栽培をして、現今の植村反別二萬何千町歩未開地十數萬町、資産が數億萬而もニューギニア會社の經營が思はしくないから、其の會社から取戻して、獨逸政府の直營にして、其の時に獨逸の總督が來まして、色々の

研究の結果、交通の不便、氣候の適否を調査して、こゝに移しました。此のニューテルベン、ラバアルに總督を置いて、日本の占領となり、總督のドクトル・パールと云ふ人は、獨逸政府が開戦當時迄、此のラバアルに居りましたが事業は不幸にして、未だに思はしくありません。私共の只今やつて居ります仕事は、椰子園と造船所と漁業、卸の高瀬貝を採るのであります。ラポールと云ふ所を中心として、此の西北の島のマグスと云ふ島に、約一千町歩の椰子園を持つて居ります。此の事業と、島の開發に就きましては、少こし關係のある話がありますので、申し上げますが、それは今私共の會社に、長崎の人で小峯磯吉と云ふ人があります。本來は木曜島の眞珠採りに、船を持て行つたのでありますが、今を去る二十六年前にずつと濠洲沿岸、此の邊を通つて、彼方此方六年も歩行いた結果、當時の獨領ニューギニアに行つた。其の時には總督が來た許りで、一向設備もなし、蕃人も頗る未開の有様で交通は頗る不便であり、そこで時の總督パールは小峯君の持

船を利用して之れに充てんことを求めたのであります。小峯君はそこで自分の持船を以て、船長となり、獨領ニューギニアの總督府の附屬の船の船長として傭はれ、夫れから約十年程此の邊の島々の開發を俱に共にやつたので、此の間總督が土人の爲に襲はれて、小峯君が總督を救けたこともあり、或は小峯君が土人から襲はれて、總督から救けられたこともあるそうです。斯くて小峯君の名は、彼等土人間に大に聲名を博し、キャピテン小峯の名は噴々として傳へられて、時々は總督よりも、恐ろしいもの、やうに思はれたこともあるさうです。

獨領と交通

そこで獨逸の總督に於ても小峯君の功勞を多少認めて、色々可愛がつて、土地の開發土人の鎮撫に就き、功勞ありとし一千町歩の租借を許され、其の儘今日に至つたのであります。然るに歐洲戦争が始まつて、遂に今日に至りましたが、不幸にして濠洲政府の占領する所となりました。獨領ニューギニアの時分には、獨

逸の經營は萬事整然として居りまして、歐羅巴人が二三百人、日本人が八十人餘り、支那人も八百名ありましたが、只今では濠洲政府の手に依つて經營され、南の方の港は、五六千噸級の船が着く、公園其他の設備一切の經營が出来て居りまして蘭領や英領に比すると較べものになりません。之れが若し獨逸政府の手で經營されたならば、更に今觀るべきものがあらうと思ひます。

獨領ニューギニアの交通は戦争前迄は、北獨逸ロイドの定期船が、横濱香港間を航行し、南は濠洲に到る千噸級の船が、一ヶ月に一回航路を開いて居りました。同じ會社の新嘉坡から、蘭領印度に向け航海し、一方は横濱メルボンと云ふ風に行つて居ります。頗る其の當時は便利では御座いましたが、歐洲戦争の結果、全然其の航路が中止になりました。日本から此處に行くには態々シドニーに行つて、又行かなければならぬ。私共は大に困りましたが、戦争中大阪から帆船で、直通の航路をやつて居りました。然かも何等の危険はありませんで、平均六十五日位

ふことですから、近き將來に於ては隠れたるニューギニアの寶庫も、開かれる時期があらうと思ひます。然かしニューギニア開發の本來の根本から謂へば、どうしても栽培事業にあると思ひます。さりながら此の栽培事業を開始することは一寸不可能で、然らばどんなものが良いかと云ふと、御承知の通り、由來南洋の栽培事業は、護謨、椰子、砂糖、木棉、蘭荳、丁子等で、土地の割に、人口が尠く土地の素質が劣等の所に、第一に懸念するのは、勞力供給の不足で、最も人力を少く、要するに植物を栽へないと、成功は六ヶ敷いやうに思はれます。其の内椰子は最も手數の掛らない植物で、假りに護謨園一町歩に對し、一年二千五百五十人の人を要しますが、私の椰子園は一千町歩に僅に、五六百人でやつて居ります。要するに獨逸政府時代に於ても、獨逸は椰子政策を執つたので、其の結果は比較的早く、確實な基礎が出来たのであります。然かし私の椰子本位と云ふのは、大體の話で土地に依つて砂糖を栽えやうが何を植へやうが構はない。本島の北部は

土地肥沃で、灌漑の便も頗る良いから、日本の農夫でも指導の下に、耕作をしたらば非常に面白くはないかと思ひます。

往け々々南洋へ

日本人發展の工合を申しますと、是れは寔に殘念至極の有様で、蘭領ニューギニアの方面に、約七八十人も居りましやうが、何れも甚だ低級な人であります。只先年ワレンと云ふ所に、堀谷某と云ふ人が、椰子、棉花の栽培を始めましたが、恰度資金の關係の爲に途中で事業を中止しました。其の小さい島に一人の大工さんが居つて、小さな船を拵へて居ります。斯様な有様で殆ど型のないやうな人許りで、英領はこれは、一種の鎖國方針で日本人とは全部没交渉であります。只一人土人を妻にして居る洗濯屋と、椰子栽培をして居るお爺さんが居ると云ふことを聽いて居ります。然かしこれは、全然日本人に關係はないと謂れて居ります。獨領の方は約九十名近いものが居ります。其の内約四十名は私の方の人間で、殘

りの五十名が彼方此方に居ります。小さな船で高瀬貝を採る者、土人との交易をなし、大工、寫眞屋、玉突位で要するに全ニューギニヤで、日本人としての事業は殆ど何等のものもありません。單に私共の仕事が多少仕事らしいもので、此の點は心竊かに喜んで居る所であります。所謂孤立無援の有様で、甚だ心細く思ふのであります。占領以來南洋方面に日本人發展、或は日本人の中心となるべき、マアシャル、カロリン群島は、僅かに五六百哩で、其の本島に於て、何も出來て居らぬことは、甚だ不合理千萬な話で、殊に和蘭領は非常に外國移民を熱望して居りますので、亦獨領ニューギニヤも何れ、濠洲政府の委任統治になりまじやうが、多分除外例をするから、多數の移民を送つて本島に於ける日本人發展の基礎を造られんことを熱望する様な事にならぬとも限らないので御座います。終りに望んで一寸お断りしますが私旅行中の爲に統計がないのみならず、大體ニューギニヤの統計は、六ヶ敷いもので、一寸圖書館で見られないので、これは何れ近い内に、

今少こし纏つたニューギニヤに關する御報告を出して、雜誌の方へ載せて頂かうと思つて居ります。一向雜駁な要領を得ませぬ話で、失禮ですがこれで御免を蒙ります。

蘭領東印度の農業

農學博士

吉川祐輝

瓜哇と甘蔗

唯今大變有益な御話をするかのやうな御紹介を得ましたが、私は往復四ヶ月半ばかりを費しましたけれども、御承知の通り往復の汽船の中においた日数も不尠ありますし、又向ふでも島から島を渡るので、日を費しますので實際陸地に居つて視たのはさう澤山の日数でないのであります。こんなことで却々容易に事物の真相を知るといふことはむづかしいことでもあります。僅に一部分を見たのであります。尙是から色々な報告書類とか、或は書物などに就て取調べまして、さうして自分の見た處と考へ合せて何か意見を定めたいといふやうなこともあります。

まださういふ違もありませんので今晚は甚だ不用意なことでありませぬが折角の御依頼でありますので何か御話をして見やうと思ひます。それは蘭領此蘭領東印度は御承知の通り、先づ爪哇、スマトラ、ボルネオ、セレベス、ニューギニヤ其他此等の間に散在して居る多數の島から成立つて居りまして、廣い範圍でございます。私は爪哇は比較的多く歩きましたが、ボルネオ、スマトラの如きは僅に一小部分を見たに過ぎないのでありまして、全般のことを自分は見ないので、ありません。それで第一に問題を起しましたのは、一體爪哇といふものが、何が故に他の島と非常に離れて發達をしたものであるか、御承知の通りに爪哇は人口から申しましても約三千四百萬の人間が住つて居ります。其密度を比較して見ますと、世界で白耳義と肩を並べて寧ろ其の上にあります。一平方哩に付き平均六百七十五人と云ふ密度であります。我日本の本國だけの密度に較べても遙かに爪哇の方が優つて居るといふやうな人口の密度になつて居る。(モナコ、香港、マカオの如き

小面積の所は比較外とす)それだけ即ち土地が開けて居りまして、今日では耕さない土地といふのは山の餘程高い處とか、又何か特別に交通の便が非常に悪いとかいふ處に過ぎないといふ位になつて居たのでありまして、さういふ風になせ爪哇だけが飛離れて發達したか、地理上から見ますといふと、スマトラなどは却つてマレー半島に近い位置にあります。ボルネオでも此方面は爪哇よりも距離が近い位なのであります。然るに蘭領東印度中にて爪哇を除いた總ての人口を見ると僅に千五百萬人位なのであります。即ち爪哇以外の諸島は土地が開けてゐないといふ事實を示すのでありまして、實に爪哇と他の諸島とは非常な違ひを生じて居るのであります。此問題を解決するといふとは、即ち今後爪哇以外の蘭領東印度といふもの、價值を大體推定する上の餘程材料になる事と考へたのであります。それで種々人に聞いて見ましたり、又書物などに漁つて見ましたけれども、書物などには一向さういふことが書いてあるのは見當りませぬ。又人に聞いても簡單

な答へしか得ないのでありまして、詰り爪哇の天然が好いからであらうといふ位のことしか答へて呉れる人はなかつたのであります。それでどうも物足りぬやうな氣がして居つたのであります。それで私は種々考へて見ました。勿論和蘭政府は多年爪哇の開墾に就て特別に多大の努力を致しましたからして、他の諸島との差等を大に助長したに相違ないのであります。和蘭政府が先づ爪哇に對して特別の努力をするに至つたのは當初より爪哇が最もよく開發して居つたからであると思ふのであります。所で先づ氣候に就て考へて見るといふと、温度の關係などといふものは、熱帶の島といふものは大抵皆似寄つたものである。熱帶の大陸でありますといふと隨分暑い時は非常な暑さになる。即ち華氏の百五十度位になる處が印度などにありますし、又涼しい處になると同じ熱帶の中でも九十度位の處が澤山あるのであります。山でない處であつて……然るに此熱帶の島といふものは大抵皆温度は極つて居るものでありまして、凡そ晝の暑い時が華氏の九十度位

であつて、それから夜の涼しい時は七十七八度から八十度位の間である。是は海面から餘り高くない處が其の位であります。海上から段々高くなれば段々涼しくなつて、百米突上る毎に攝氏の〇、五七度位の割で涼しくなつて来る。だからして約三千尺海面から上ると華氏の十度近くは温度が低くなるといふやうなことはもう爪哇ばかりでなしに、スマトラ、ボルネオでも比律賓諸島でも皆大抵同じやうなことでありまして、温度といふことに就ては今日殆ど熱帶中に居る人が餘り重んじて考へないといふやう位の見受けるのであります。さうするといふと先づ温度は特別に爪哇が良いといふやうなことはないと思ふのであります。尤も爪哇は御承知の通り細長い島でありまして、其中央に多數の山が並んで居りますから、海面から高い土地が割合に澤山あるといふことは確かで、それだけ氣候の良い所が多いといふことは確かであります。併し海岸の平地では別段に爪哇が良いといふ著しいことはないやうであります。それから雨の關係などを見ますと、

雨は大體熱帯は澤山降る處が多いのでありまして、若し降らなかつたならば沙漠状態になる譯であります。だから熱帯の大陸には屢々沙漠のやうなものが出來て居るのであります。熱帯の島に於ては普通千五百ミリメートル位より少ない處は滅多にないのであります。二千、三千、四千ミリメートル位降る處が多いので、甚だしく多いのは六千ミリメートル位降る處があるのでありまして、それもずつと雨の統計表を見ましても別段爪哇だけが雨の具合が非常に良いといふやうな事實は見られないのであります。御承知の通り雨を觀測した報告が、出て居りますが、之を見ましても餘り爪哇だけが特別なことはないのであります。唯爪哇には西部の方は雨期と乾燥期の區別が甚だ少ない。殆どないといふても宜い。然るに中央から東部の方になると乾燥期と雨期との區別が著しくあるのである。併しどつちが宜いのであるかといふことは決定が出來ないのでありまして、始終雨が平均して降ればそれに相當する作物を作ることが出來る。又雨が片寄つて降ればそ

れを利用することが出來るのであります。例へば爪哇の砂糖黍即ち甘蔗といふものは主に中央から東の方で栽培が行はれて居るといふことは、即ち乾燥時期を利用するのでありまして、其利用する方法は、甘蔗は温度が何時も高く、其上に濕氣が多かつたならば、甘蔗は始終成長する状態で、砂糖は得る時期がないのであります。乾燥期がありますから其乾燥期に收穫するやうに前以て設計をして植付をして、其乾燥期になつて收穫前になつたならば灌溉をやめて、さうして乾燥といふことに據つて、成長を妨げ、さうして莖の中に砂糖分を蓄積します。又莖の水分を少なくすることが出來るから、さうすると砂糖の濃度が高くなつて、製造が容易くなるといふ具合に、乾燥を利用することが出來るのであります。是は何處でもさういふことが出來るので、別段爪哇に限つて特に非常に雨の具合が良いといふことも云へないと思ひます。それから風といふものに就て考へて見ると、風は處に據つて随分大風が吹く。例へば比律賓などは北緯十度以北の處になると

屢々大風が起つて随分酷い害を被るのでありますが、十度以内の赤道に近い處になると大風はないのであります。稍々強い風はあるが……爪哇などは矢張赤道に餘程近い處でありまして、一向大風などいふものは吹かない處である。それは爪哇のみならず、スマトラなどでもさういふのであります。又ボルネオは丁度ポントアナが赤道の直下になつておりますが、ボルネオにも非常な暴風は吹かないのであります。さうして見るといふと、強い風が他では吹くが爪哇では吹かぬといふ事實はないのであります。さういふ風に考へますと氣候といふものに於ては別段非常に爪哇に益するといふことはいへないと考へるのであります。

地質と土壤

それから次に土壤に就て考へて見ますと、土壤は少し爪哇と他の島と違ふところがあるやうであります。それはなせ違ふかといひますと、爪哇は御承知の通りに火山が非常に多いのでありまして、一寸私が記憶して居るだけでも、例へばプ

イランゾルフに近い方面では、サラツクといふ火山と、ケデーといふやうな火山がある。それからもう少し中の方に行けば例へばメルバハーとか、サラメとかそれからババダヤン、チクライなどいふ山があり、東の方へ行けばテンゲール山、其中にプロモといふ有名な噴火山が含まれて居るのであります大體爪哇に澤山火山があることは、多くの人の御承知の通りでありまして、其の数は百四十以上あると云ふことであります。是等の火山といふものは必ず一度は活動したのであります。而して今でも爪哇には活火山が幾つもある位であります。さういふ火山が酷く活動した時にはいふ迄もなく火山灰を噴き出します。それであるから爪哇には火山灰で掩はれて居る土地が非常に多いのであります。それから其火山灰が雨に據つて流れて來るといふこと、火山灰で出來た處の沖積地が下の方に出來て來る。此火山灰といふものは良い土壤であるか、又悪い土壤であるかといふことは非常に農業に重い關係を持つものだらうと思ひますが、それは爪哇に居る和蘭

の専門家の調べたものを見ますと、爪哇の火山から噴き出した處の火山灰といふものは、一般に農業の土壤として良い、肥沃なる土壤を構成するのであるといふのであります。さうして見ると、此爪哇には縦に澤山火山が並んで居るので、何時かは火山灰を噴出したのでありますから、爪哇の土壤といふものは概して良い土壤といふことに判断して誤りないこと、思ふのであります。所が他のスマトラ、ボルネオなどの島を見ますと、若干の火山があるやうでありますけれども、が逆も爪哇のやうに澤山ないのであります。(スマトラには九十以上の火山があり、ボルネオには甚だ少數であると云ふ)又其火山があつても爪哇と同じやうな良い灰を降らすとも限つたものでないであります。それでどうしても爪哇と他の島とは大體土壤が違ふといふこととは判断することが出来るのであります。尤も何處もかも爪哇よりは他の島が劣つて居るといふことはいへないのであります。スマトラとかボルネオの中でも随分良い土壤の處もあると思はれるのであります。

さういふことからして考へるといふと、爪哇の島は大體全體の土が良いといふこととは先づ確かである。さうして見るといふ土が良いければ樹木としても能く繁茂する樹が能く繁茂した處を開墾して農作物を作れば必ず作物は良く出来るといふことは事實でありますから、爪哇に多くの人が早く繁殖してさうして農作が早くから盛になつたといふことは有り得べきこと、思ふのであります。それから尙是は私は餘り正確な調べをすることが、一寸出来ないものであります。が、港のやうなものにも關係があつたに違ひないと思ひます。御承知の通り爪哇海は非常に静かな海でありまして、又大體淺い海のやうであります。餘り酷い浪などは起らない處でありますから、爪哇の航海といふものは至つて容易いのであるから、往昔汽船などの出来ない時代に於ても容易く大陸からして航海して行くことが出来たに違ひないのであります。これが出来たとすればスマトラ、ボルネオなども同じ様でもありますが、そこには違つて居る點があるのではないかと思

ふのであります。それで例へばスマトラを見ると、其の大陸に面した方面といふものは非常に低濕の處が廣いのである。容易に陸地といふものに近付くことが出来難い。今日でも稍々大きな汽船の入つて行ける處はメダン港になつて居るベラワンであります。此ベラワンでも船が長い間泥の中を通つて行くので、其間は特に目標が設けてあつて、又た常に浚渫船で泥を浚つて居るといふ狀況であります。又パレンバンなどは一層船が入るに困難な處であります。それは非常に遠淺になつて居るからであります。詰り泥の深い濕地が非常な大面積を海に接して存在して居りますから、船が近付いて上陸することが餘程やり難い處のやうであります。それからボルネオなどもさういふ處が多いやうであります。爪哇の方は比較的容易く船が近寄れたのではないかと思ふのであります。政府の年報に據つて見ますと蘭領印度の港を大、中、小に區別して居るが、其の大港は爪哇のタンジョンプリオクと、スラバヤとスマラン、トチラチャツプ、それからストラのベラ

ワンと、エンマハーフェン、それから、セレベスのマカツサルであります。即ち爪哇は爪哇海に於て三の大港を有して居る。而して此の三大港は蘭領印度中で最も良好な港であります。尤も爪哇は人口が多くて物産が多くありますから、政府が特に改良を施して此等の港を一層良くしたいといふこともありませうが、初めから矢張船が近寄り易くして、上陸が容易いといふことがあつたのではないかと思ふのであります。それから早くから大陸の人が爪哇へ入込んで、さうして肥沃なる土地を開いて農業を營んだといふ處から、さういふ風に爪哇が特別に早く開けたのではないかと思ふのであります。さうして開けて來たものであるから爪哇を支配した政治家なども、爪哇が一番大切な處であるといふことを考へて、力を爪哇に最も多く注いだから著しい速力を以て爪哇が開けて行つた。斯ういふ風になつて來たのではないかと思ふのであります。さうして見るといふと、今後土地の豊富にある處のスマトラ、ボルネオといふものの天然の状態、殊に土壤といふも

のに於ては爪哇程にはいかぬのであらうといふことを、先づ想像しても宜からうと思ふのであります。併し部分部分には随分肥沃な土壤があるといふことがいへるのであります。尙昔は今日のやうに種々の文明の利器といふものがなかつたからして、却々開くのはむづかしかつたが、今は文明の利器が出来まして、交通の便も大に發達し、來ましたからして、さういふものを利用すれば、即ち以前よりも、餘程速に土地を開發することが出来る譯でありますからして、今後ボルネオ、スマトラ等を開くには前よりも容易いといふことがありますから、決してさう是等の島を酷く劣つたものと考へるには及ばぬのであつて、是等の島を大いに利用することは出来るものといふことは間違ひないこと、思ふのであります。

農業と農産

次に蘭領印度の農業に就て見ますといふと、先づ私は小農と大農とに區別することが出来ると思ひます。小農といふのは即ち殆ど總て土人の經營して居る處の

ものであります。又大農といふのは所謂エステートと唱へるのであつて、歐羅巴人の經營して居るのが大多数であります。又支那人のやつて居るものもありませんし多少日本人のやつて居るものもある。詰り土人以外の人がやつて居るのは大農といふものであります。斯ういふやうに區別することが出来ると思ひますが、其エステートの數が一體どれ位あるものであるか、地圖を見ますといふと、爪哇の方には可なり點々として散在して居るのであります。又スマトラなどのエステートの地圖を見ますと、メダンの方面などはまるでエステートが連続して了つて隙間が少しもないやうになつて居ります。それで主なるエステートの數は千九百十八年の終りの頃の統計に據つて見ますと——砂糖にはエステートの統計がなかつたのでありまして製糖場の數で調べたのであります——爪哇には千三百五十三のエステートがありまして、それから外領、即ち爪哇以外の蘭領東印度には五百四十四のエステートがありまして、合せて千八百九十七のエステートがあつたのであ

ります。是は恐らくは今日ほもつと殖へて居るだらうと思ひます。殊に外領の方に於て一層殖へた數が多からうと思つて居ります。それでありませうから爪哇の方でも土人が既に農業を盛んに營んで居つたに拘らず、後とから文明人が入つて行つて、さうしてエステートといふものを設けて、可なり澤山のエステートを拵へて居る譯である。詳しく調べたら千五百以上もあるかも知れない。併し外領の方はまだ甚だ少ないのでありまして、是から大いに開かるべき將來を持つて居るものであるといふことを想像することが出来るのであります。併し私の調べたのは主なる作物のエステートだけでありまして、細かい色々のものは統計外であります。さういふ細かいものを加へたらずつと殖へるかも知れない。私の調べたのは甘蔗、珈琲、ゴム、茶、規那、椰子是だけの六つのものでだけのエステートを調べたのであります。それだけで其位澤山あるものであります。斯くの如く澤山のエステートがありますからして、さうして政治をする人は和蘭人がするものでありますか

らどうしても斯ういふエステートが發達するやうに、又和蘭人の都合の好いやうに發達して來るといふことは自然の趨勢でありまして、爪哇其他スマトラでも總て自動車を通れる處の大きな道路が開けて居る。殊に爪哇には随分立派な道路がよく開けて居りまして其の道路の並木を見ても、三十年も四十年も経つて居るかと思はれる道路が澤山ありますが、是は恐らくは初めから自動車を走らせやうと思つてやつたのではありますまいけれども、兎に角運搬の便の好いやうに大きな道を早くから開いた。今日では自動車の走るに都合が好いやうになつて居ります。是から開ける土地も自動車の走るに都合の好いやうにやることは確かであります。一體に彼地の道路を見ると先づ市街の道路が甚だ良いのみならず、田舎の道でも自動車の走る道は大變良い。殊に修繕が能く行届いて居る。交通の多い街道筋であると約二十日平均位毎に一臺のステイムローラが居つて、常に修繕して行くといふやうな調子で、斯ういふ風に誰でも感心することがあります。顧み

て日本の道路を見ると非常に悪いといふので随分不平をいふ人が多いのでありますが、寔に御尤もなことであるけれども、併ながら私は考へるのに、斯ういふやうに爪哇には立派な道が出来て居るけれども、それには相當な費用が掛るのであります。他のことを多少犠牲にして居るといふことは免れぬのであります。例へば教育といふことはどれだけ進んでゐるか、蘭領東印度の教育の設備は高が知れたものである。で道路だけは確に日本などは逆も寄り付けぬやうなものであります。が、さういふ道を拵へるには他のことを犠牲にして居るのであつて、歐羅巴人が自分等の都合の好いやうに事物を發達させて居ると考ふべきものであると思ひます。

一般農業と申しますと、家畜を飼養すること、それから農作物を栽培することとであります。一帯に熱帯では家畜の飼養といふものは甚だ微々たるものであります。それは熱帯には病害が甚だ多いのであります。例へば牛ならばベストの

やうなものがある。其色々の流行病が多い。概して熱帯に流行病が多いといふことは人間にもさうであらうと思ひます。詰り始終暖いのであるから、微生物の繁殖などが早いのでありますからして、どうしても多いのではないかと素人考へをしてるのであります。さういふやうなことがあるからして、家畜を飼養する農業はどうして發達しないのであります。最も山の高い處になりますと、歐羅巴の牛を飼養して牛乳を取ることも行はれて居りますけれども、併し決してさう盛んにやつて居るものでないのであります。殊に原地の方では乳牛などを澤山飼ふといふことは危険で出来ないであります。其外色々の家畜に就ても、家畜を澤山飼つて居るといふ處は何處にもないのであります。大體熱帯の農業は主に作物の栽培であるといつて宜いのであります。勿論其栽培には家畜の勞力が必要でありますから、それには主に牛を使つて居るので、印度の牛とか水牛のやうなものを使つて居りますが、それ等も矢張牛疫などに罹りますから甚だ危険なのであります。

す。それで熱帯の主な農業は農作物の栽培であります。其中で一番主なるものであるかと申しますと、先づ私は稻が一番大切な作物となつて居ると思ふのであります。就中爪哇は稻作が盛んに行はれて居ります。是は土人澤山住むにはどうしても食用の作物を作らなければ、澤山の人が住へるものでない。一定の面積に澤山の人が住むには食物を生産しなければならぬのであります。さういふ關係から矢張爪哇のやうな人口の稠密な處では、人民の主食物となつて居る處の稻作が最も盛んに行はれて居るのは當然のことと思ふのであります。能くは分りませぬが爪哇では米が約三千四五百萬石位出来るやうであります。併ながらそれだけでは足りないのでありまして、近年に於ては往々米の輸出を禁じたりしたのであります。さうして猶ほ米が澤山に暹羅とか或は印度支那の方から輸入されて居ります。兎に角爪哇は殆ど到る處に稻作が行はれて居りまして、一寸日本など、似寄つた位な程度に稻田を見受けるのであります。それで一體どの位穫れるものであ

るかといふことを見ますと、一定面積の産面は日本よりは遙かに少ないのであります。尤も爪哇は同じ土地で一年間に二回の稻作をする處も少なくないのであります。

大農法と小農法

さうして見るといふと尙更一定の面積から米が澤山穫れなければならぬのであります。然るに實際は日本よはずつと少ない。どの位かといふと統計が極く確かでないと思ひますが、約日本の一反歩に對して一石乃至一石二斗位のやうであります。日本はどの位かといふと御承知の通り日本は今日では一反歩から一作で一石八斗以上穫れて居るのであります。それでどうして爪哇の方がそんなに少ないのであるかと申しますと、之には色々理由があることと思ふのであります。先づ氣候といふものに就て考へて見ると、一體稻といふものは印度などから原産したもので、元來熱帯作物であります。が温帯に來て却つて熱帯に於ける以上に良い

作物となつたのであります。日本のやうな温帯では夏といふ暑い時があつて、其間に稻の莖や葉が盛んに成長する。秋になつて涼しいから成長が止つて了ふ。其莖や葉の成長が止つて、其莖や葉で拵へた所の養分が粒の中に蓄積せらるゝので、それで稻が能く稔るのであります。然るに熱帯の方では何時も稻が成長することが出るといふ譯でありまして、さういふ養分の蓄積といふやうな具合が温帯のやうにうまくいかないであります。始終發育繁茂する傾向があるのであります。即ち斯ういふことは氣候の關係でも熱帯の方が少し悪いのであります。それからもう一つは人間の努力が足りないのであります。第一種類の改良といふことが日本のやうに進まないのであります。是迄人が種類の改良といふことに就て努力しない。多少はやつたらうが少ない。日本のやうに良い種類が出来て居ない。熱帯でも熱帯に適するやうな良い種類が出来なければならぬのであります。努力さへすれば千年も千五百年も経てば出来るのであります。それをしないからまだ出

来てゐないのであります。もう一つはまるで肥料を施さない。それであるから如何に土地が良いといふた處が、土地の養分といふものはさう何時迄も限りなく澤山米が穫れるやうに續いて行くものではないのであります。尤も稻といふものは灌溉をしますから、灌溉水から養分が取れるのでありますけれども、が併し限りがあるのであります。さうなんぼでも稻の方で要求するだけの養分が取れるといふ譯ではないのであります。それから耕作などに就ても無論彼地の方が幼稚であります。雑草の混つて生へて居ることなど、いふものは、處に據つては非常に酷いもので、さういふことを見ても栽培に力を充分に入れてゐないといふことが判るのであります。で今後改良すれば必ず出来るのであります。政府の方でも多少農業教育といふことに盡力して居ることは居るのであります。農學校なども多拵へて居ります。併し稍や程度の高い農學校は、ブイテンツソルフに一ヶ所あるだけで、其他には地方の普通の農學校が多少あるのと日本でいへば補習學

校位の程度のもものが諸方にあるといふ位のもので、數もさう多くないのであります。一方に於ては普通學といふものがさううまく行はれて居りませぬから、詰り爪哇の農民、一般の土人の知識の程度は低いので、農業教育でも、高い農業教育を廣く施すことも出来ないもので、又施してゐないのであります。土人の農事の改良といふことは却々爪哇ではむづかしいと思ふのであります。それで今後爪哇の米が著しく多く取れるやうになるといふことは却々望むべからざること、考へるのであります。一體稻作といふものは寔に具合の好い作物であつて、今いふた灌溉水から自然に養分が取れるといふことは、是は貴重なことであります。日本では灌溉水から自然に養分が取れる分量を計算して見ると、一ヶ年約一億五千圓の養分が取れて居るといふことは間違ひないこと、私は信じて居ります。猶ほ又稻作が農業上頗る具合が宜いといふことは、土地の状態を更新せしむることが出来るといふことで、此點も亦た寔に貴重なことであります、どうして更新するのか

といふと、稻を作る時には必ず水をかける。尤も陸稻もありますが、爪哇には陸稻は少し、かないのであります。それで水をかけるといふと、今迄水のかゝつてゐなかつた土地へ水をかけたら、即ち土地の状態が一變する、土地の状態が一變するとなせ宜いかといふと、作物に色々害をする鼠かと昆虫とかバクテリアとかいふものは、水へつかつたら多くは死んで了ふのであります。さうした後に水をかけるのをやめて、畑の状態にして物を作るといふと、さういふ有害なものが殆んどなくなつて居るか、若くは非常に少なくなつて居るから後が非常に具合が好く出来るといふのであります。爪哇でも甘蔗の栽培に斯くの如き土地の状態更新といふことを利用して居るのであります。即ち爪哇では三年に一回同じ土地にて甘蔗を栽培するやうになつて居ります。例へば先づ今年甘蔗を作つたら翌年は其土地に豆類とか、又は玉蜀黍とかいふ様な畑作物を作りまして、其次ぎには稻を作るのであります。而して其の次には又た玉蜀黍、カツサバ、甘藷、落花生、大

豆畑作物を作り、其の次に復た稻を作り、然る後に更に甘蔗即ち砂糖黍を作るといふ様に三年の間に五回作物を作り、其の内二回は灌漑して稻を作ることになつて居るのであります。斯ういふ風にしてやつて行くと、砂糖黍いやうなものも病害が少ないからさうするのであります。即ち稲作は土地の状態を更新する點から都合の好い作物であります。其の代り又具合の悪いこともあります。それを水をかけて作るのでありますから、土地が水平でなければならぬといふことであります。畑の作物であれば、土地が少々傾斜してゐても其儘作つて行くことが出来るが、稲作は水をかける以上は、どうしても田地が水平でなければ水がかゝらない譯であります。此點は頗る都合の悪いことで、亞米利加の如き大平野の處であれば水平の處に田地を拵へて稻を作るといふことは比較的容易いが、日本とか爪哇のやうな傾斜の多い處では、大面積の水平面を得るといふことが却々困難である無理に拵へやうとすれば大いに金がかゝりますので經濟上出來ない事となるの

であります。それで稲作といふものは大抵土人がやつて居るのであります。又今日では大きなエステートで稲作をすることは政府が禁じて居る。それは土人を保護する爲であります。併しスマトラ、ボルネオでは出來ますが今いふ通りで私人の經營としては餘り都合よくないのであります。和蘭政府はスマトラのパレンバンといふ處の附近に可なり大きな面積の稲作をやることを近頃計畫して居るといふことであります。既にやつて居るかも知れませぬ。それからボルネオの方でもマルタブラ地方に可なり大きな土地を整理して、是は政府が直營するのでなくして、人民に作らせる様にして居るやうに聞いて居ります。さういふ風に幾分ハ稲々大規模の稲作といふものも行はれとして居りますが、大規模と申しましても、パレンバンの方は大きな面積に機械力を使つてやる稲作かも知れませぬが、之は政府の仕事である、其外には土人にやらせるといふのは、規模が小さいので唯多くの土人にやらせるといふことに過ぎないと思ふのであります。又稲作は耕作に

手がかゝります。亞米利加のやうに畑の状態にて整地して置いて、乾燥状態で種子を蒔いて置いて、芽が出た後に水をかけて、其の後は除草も何もしないといふことであればは大規模でやれますが、それでは矢張收穫は少ない。日本のやうに苗を作つて移植をするやうな栽培法を採つたならば、大規模の稲作といふものは却々出来るものではないのであります。さういふ譯で私は大體蘭領東印度でも大規模の稲作といふものが、大いに發達する見込がないものと考へて居ります。

甘蔗糖と甜菜糖

稲作に次で重要な農作物は甘蔗即ち砂糖黍であります。是は今日では爪哇ばかりでやつて居るのであります。他の島には殆どないのであります。一體世界で砂糖を取る作物いふものは、今日では甘蔗が第一であつて、其次ぎに甜菜即ち砂糖大根といつて、歐羅巴などで盛んに作つて居るものであります。ところが甜菜といふ作物は出来てから僅かに百年程にしかならない新しい作物であります。即

ち往昔から甜菜といふ砂糖を多く含んだ作物があつたのではなくして、之は英吉利でマンゴールドといつて家畜に食はせる燕と大根の間のやうなものが昔からあつて、それに砂糖分が多いことを佛蘭西の人が發見して、それから砂糖を取り始めて、段々と進化したものであります。爾來著しく人工で改良して今日のやうな砂糖のパーセントを多く含む甜菜が出来たのであります。此進歩など、いふものは人間の力を作物に加へた最も著しい一例であります。さういふ風に甜菜が一時非常に長足の進歩發展しましたから、一時は世界の砂糖の總生産額の半分以上は甜菜の砂糖でありましたが、それは一つは歐羅巴の經濟政策で特別な保護を加へたからでありまして、其の後ちさういふ保護をやめるやうになつてからは、又甘蔗の方が段々優勢になつて來たのであります。最近では甘蔗糖が著しく甜菜糖を凌いで居るのであります。さういふ具合に一時でも新しく出来た作物である處の甜菜といふものに、甘蔗が負けたといふのはどういふことかといふと、即ち熱帯

の人が努力をしなかつたからである。元來甘蔗は熱帯のものであるから、熱帯の人が早くから甘蔗の改良をすることに努力して居つたならば近世に於てもつと改良された甘蔗が出来てゐなければならぬのでありますが、近世に至る迄何等の努力を加へなかつた。何等著しい學問的の努力といふものを加へなかつたのであります。ところが爪哇では近代に於て糖業者が甘蔗の栽培や、品種や又た製糖方法に努力しまして、種々の改良を施したのであります。即ち其の爲には試験場を設けた。さうして色々の研究をさせたのであります。爪哇の斯ういふ試験場といふものは、政府がやつて居る試験場ではないので、例へば甘蔗糖業の試験といふものは、糖業會社の協會で金を醸出して試験場を設けて甘蔗糖業に關することを研究させて居るのであります。それと同様に珈琲業者や茶業者や又はゴム業者は各協同して費用を負担して自分等の望む處の研究をやらせて居るといふ、斯ういふ風に多くなつて居る。尤もブイテンゾルフに、一般の農業に對する試験場もあり

ますが、規模が甚だ、小さいので、汎く手を擴げて居るといふ程ではないのであります。却つて斯ういふ當業者が自分の問題を解決して貰ふ爲に、自分等で拵へた試験場にやらせて居るといふことは、餘程適切な應用が出来て來る譯と思ふのであります。それで糖業試験場は三箇所に別れて居りまして、化學に關する試験はベカロンガンといふ處でやつて居りますが、栽培に關する試験と品種の改良などの試験はバヌルワンといふ處でやつて居ります。私はバヌルワンの試験場へ行つて見たのでありますが、其試験場でやつて居ることの最も著しいことは、甘蔗の品種の改良であります。御承知の通りに、爪哇には甘蔗に病害が甚だしいのでありますから、病害を成たけ少なくする爲の一つの手段として、輪栽の法を採る以外に、苗を山の方で仕立てるといふことをやつて居るのであります。即ち平地の砂糖黍の良く出来る處で、矢張其所で苗を取つたのでは病菌が付いて居つて困るから、病害のない涼しい處へ持つて行つて其處で苗用の甘蔗を作るのである、

而して砂糖黍は御承知の通り挿木で繁殖するのでありますから、此の苗用の莖を適當なる長さ即ち二尺位宛に切つて其の兩端にコーラルを塗つて束にして汽車で平地へ送つて、そこで栽培用に供する。さういふ風にしてやつて居つたので、今日でも矢張此の方法が盛んに行はれて居るのであります。所で此バヌルワンの試験場で第一に着手したのは、成るべく砂糖のパーセントの高いものを拵へるといふことに努力したのであります。それはどういふ方法でやるかといひますと詰り色々雜種を拵へて見るのであります。砂糖黍は薄の穂のやうなものが出て、矢張花が咲く。其花を他の違つた品種の花にくつ付けて、さうして雜種を拵へるのであります。さういふ方法で段々パーセントの高いものを拵へたのであります。最近にはさういふこともやつて居る以上に、病害に對して抵抗力の強い品種を拵へるといふことに努力して居ります。それはどういふ方法かといふと、野生の砂糖黍といふものがありまして、それは野生物であるから非常に病害に對して

抵抗力が強い。其抵抗力の強い性質といふものを、砂糖分は多いが病害に對して抵抗力が弱いといふ缺點のある砂糖黍と雜種させる。さうして砂糖分が澤山に含まれて居つて、且病害に強い品種を作り出すといふことに今日は努力して居るのであります。是も學問上確に出来ることでありまして、既に多少は成功して居るやうであります。又たベカロンガンの試験場では肥料の經濟的改良に就て研究して立派な成績を擧げて居ります、以上一端を述べました通りに種々改良を施した結果として、今日では爪哇の砂糖業といふものは、世界中で最も進歩して居るといふことであります。近年爪哇に於ける砂糖の收量に就て計算して見ますと我が一反歩に對する平均の砂糖生産量は二百五十貫乃至二百九十貫許に當るので之は非常に多いと云ふてよからうと思ひます。同じく熱帯でも印度などは平均五十貫位穫つて居るのであります。さうして見ると爪哇では印度の五倍以上の砂糖を同じ面積から穫つて居るので、是は即ち種類の改良とか耕作法の改良とか肥料の

改良とか、製糖法の改良といふ事柄が、大いに興つて力があるものと思はれるのであります。

スマトラ煙草

前述の如く爪哇の最も主なる作物は稻と甘蔗とであります。甘蔗の外、大農場で作る主要物はゴム、珈琲、茶、煙草、規那、椰子、カボック、オイルバーム、コ、ア、シトロネラグラス及びレモングラス、さういふものであります。今一々御話することは出来ませぬからやめます。此中一二のものに就て申し上げますと、珈琲は爪哇では是迄非常に失敗したのであります。といふのは初めアラビヤ種の珈琲を入れて作ったのです。さうした處が病害に盛んに罹つて困つた。其次ぎにリベリヤ種の珈琲を作つたが、是は粒の大きい珈琲で、又暑い處に適する珈琲であります。是も失敗した。其次ぎは海面上から高くない即ち平地では病害が強くて出来ないといふので、段々山の高い處に珈琲園が上つて行つて、尙其上に種類

も阿弗利加で発見した處のロープスタといふ種類を今から二十年程前から入れて、今日では主にそれを作つて居るのであります。ロープスタといふのは病害には強いが、品質はアラビヤ種に較べると劣るので、到底爪哇の珈琲といふものは優良と云ふべきものでなく、セレベス邊の方が良い珈琲が出来るのであります。それから煙草は爪哇でも作りやすく、スマトラ其他ボルネオでも作るのではありませんが、爪哇では餘り良いのは出来ないであります。スマトラでは所謂デリー方面が煙草の産地であります。世界に名高いスマトラ煙草が出来るのであります。是は御承知の通りメダンといふ町を圍んで可なり廣い面積の處が殆ど煙草のエステートばかりであるといふやうな有様であります。デリー煙草は同一地所へは八年一回作るのであります。どういふ風にするかといふと、先づ煙草を今年作つたとすると、爾後七年間其土地を休ませ置く、其の間に其處へ木も生へる草も生へる、斯くて叢林になる儘に放つて置いて、九年目に復た此叢林を開墾して煙

草畑にするのであります。之に就て一つ面白いことは其煙草をやめて時々畑の周圍へ凡そ五間位の幅でチークの木を植へて置くので、詰りチークの森のやうなものが出るのであります。さうして其チークをどうするかといふと、チークが段々太つて来ると其儘に置いては密殖し過ぎるから間伐をする。間伐すると丸太が取れる。東京邊でよつや丸太といつて杉の丸太がありますが、あれと同じやうに丸太が出来る。八年目になつて煙草畑を開くと其處に色々の建物が要るのであります。第一耕作に従事する者の住家が要る、それから煙草を乾燥する小屋も要る。煙草を撰分けたり醗酵させたりする小屋などの建物が要る。其建物の材料に此のチークを使ふのであります、尤も煙草畑の周圍には必ずチークのみを植ゑると限つた譯ではなく、多少は其の代りに竹を植ゑることもあります、之も煙草畑の附屬建物に入用でありますから、要するにチークの丸太を取るといふことは私は初めて見たのでありますが大變面白いと考へたのであります。尤も爪哇邊

にもチークの森が澤山ありまして、鐵道の枕木などは大抵チークでやつて居るといふことであります。スマトラの煙草は御承知の通り一種特別のものであります、非常に葉脈が細い。さうして葉が薄くて弾力の強い煙草であります。香や味も良いのであります。だから葉巻煙草の外巻用としては世界第一と云ふ定許があるのであります。さういふ煙草であるから非常に値が高いのであります。先づ今日でも煙草の栽培者はそんなに困つて居らぬやうであります。それでは他所でも眞似をしてスマトラ煙草を作つたら良い様でありますが、煙草は栽培收穫して後に乾燥及び醗酵などいふ作業が必要であつて此等の作業は實にデリケートなものであります。熟達するには容易なことではないので、一寸他國から煙草を作ることの出来る人がやつて来て、スマトラの或處でスマトラ煙草を作つて見たいと思つた處で容易く成功するものでないので、必ず若干の犠牲を拂つて經驗を経なければ成功しないのであります。次に規那を採る木即ちシンコナ樹のことに

就て少々申上げますと、此の樹は、山の高い處で作るのでありまして、而して規那の製造は政府の專賣になつて居る。併し規那の木を作るといふことは政府だけがやつて居るのでなくして、民間のエステートもあるものでありまして、千九百十八年の終りに爪哇には百四のシンコナ樹のエステートがありました。外領には僅か四つしかないので、合せて百八のエステートがあつたのであります。其外カボツクといふものは熱帶の島には極く普通な木でありまして、日本の梧桐に稍や似たもので、枝が殆ど水平に出て居ります。臺灣の斑芝樹は之に最もよく似た木であります。品質は違ふのであります。是は丁度瓜のやうな實が生りまして、其實の中に種子と共に綿が一杯入つて居るのであります。割ると中から黒い種子と稍や褐色の綿が出て來るのでありまして、是は何にするかといふと、是迄は主に蒲團類の中に入れるといふことにして居りましたが、近頃は亞米利加などで船から海へ落ちたものを助ける爲の浮器の材料に使ふさうであります。是はカボツクが

浮揚力が甚だ強く、コルクなどよりも便利であるといふことであります。又近來衛生材料などにも用ゐるさうであります。或る書物に據りますれば縹帶に此綿を使ふと非常に乾燥性なので都合の好い場合があるといふことであります。糸に紡ぐといふことは從來出来なかつたのであります。なせかといふと棉のやうに纖維が捻れて居りませぬから、紡績が困難であるからであります。數年前に獨逸の人が工夫して糸に紡ぐことが出来るやうになつたので、さうすると尙今後は用途が擴まるであらうといふことであります。今迄此カボツクのエステートといふものは甚だ稀れでありまして、唯諸方にカボツク樹が散在して居る位なことに過ぎないのではありませんが、爪哇のカボツクは世界で一番良いさうで、又最近に於てもカボツクの値段が存外好いので、カボツクを植えて居る人は大變喜んで居ります。是なども出來作物として考へなければならぬと思ふのであります。

カツサバとタビオガ